

序章

合理と 非合理との間に 育つ

尚美学園短期大学
教授

深谷昌志

子どもは神秘の世界に暮らしていた——●

一昔前の子どもにとって、世の中は謎に包まれた神秘の世界だった。雨の降る夕方、墓地の近くを歩くと、ヒトダマが出てくるし、ミミズにおしっこをひっかけるとオチンチンが大きくなる。天気がよいのに雨が降るとキツネの嫁入りだ。月にはウサギがいて餅をついている。うそをつくと閻魔に舌を抜かれる。夕方ひとりしていると、人さらいにさらわれる。死んでからの世界に地獄と極楽とがある、などである。

実際に電気がついたといっても夜は暗かったし、地域の人は顔見知りなので、知らない

人には警戒心を強めた。隣の校区の子がさらわれてサーカスに売られたなどの情報が入ってくる。「コックリさん」のうまい子は、あの子には何かがついているとうわさになる。

ともかくにも、不思議や不明、謎がひしめいていたのが子どもの世界だった。もちろん、学校の理科などで合理的な話を聞き、月にウサギはいないらしいと知ったものの、それでも、もしかしたら月にウサギがいる。月を見ていると、そんな気がすると思ったものだ。墓場のヒトダマも雨で地面がぬれ、燐がでてきた結果と習ったものの、ヒトダマの恐怖は去らなかった。

子どもはコウノトリがつれてくるという話や、キャベツ畑から生まれるなどとは信じな

かったが、それでも、生は神秘の世界だったし、それとは逆に死は身近な現象だった。そして、三途の川や死に装束を信じて、死者が安らかな死後の旅を送れるように願った。

神秘な世界が消えた

現代の子どもはテレビを見て育ってきた。テレビは子どもにもわかるように世の中の現象を説明してくれる。宇宙衛星から送られてきた画面で月の表面を見ると、ウサギ伝説は吹っ飛んでしまう。テレビのニュースはその日のできごとを克明に伝えてくれるから、人さらいなどはないと思うようになる。

生についても、テレビであからさまに性を伝えるから、コウノトリを信じる子はいないし、脳死などの情報に接すれば三途の川伝説を捨てざるを得なくなる。

子どもから神秘な世界を奪ったのはテレビだけではない。生活そのものから謎や闇がなくなりつつある。

かつて家では、家の中には天井裏のような闇のスペースがあって、ネズミが駆け回っていた。トイレの電灯は暗く、その下は汚く気持ちの悪い空間だった。物置にはいつのものかわからない古びたものが雑然と置かれていた。そのように、家の中には暗い不気味な空間があった。

しかし、現代の建築では天井裏がなくなり、ネズミと人との共存はなくなっている。トイレは水洗になり、トイレの臭いすら消えた。物置も姿を消し、きちんとした収納庫がとってかわった。

その結果、家庭の中から神秘さがなくなり、

暗さのない明るい家庭が誕生した。そうした神秘な世界が消えたことは世の中に科学の進歩が浸透した証で望ましいものだと思う。未知の部分を解明するのが科学で、その科学のおかげで生活そのものが楽になり、病気や災害からも距離を置いた暮らしが可能になった。

子どもは神秘さを求める

学校ミステリーが話題になったことがある。現在でも子どもたちは「花子さん」の存在を信じており、右から3番目のトイレが危ないなどという。占いもさかんで、特に星座を信じている子どもは多い。血液型や生年月日にこだわる子どもも少なくない。

そういえば、高学歴で専門を持った若者がオウムに惹かれていった。現在でも、問題があるとみられるカルト的な宗教に参加している若者をみかける。高学歴で専門性の中で合理的に暮らしてきた若者ほど、非合理の世界に魅力を感じるのかもしれない。

オウムの問題はともあれ、いかに合理的な世界であろうと、非合理や神秘さが残っている方が自然の暮らしなのかもしれない。流れ星に願いをかけるとかなえられる。虹のはずれまでたどりつけると宝物がある。雲の上にまた別の世界がある。天使がいて、自分たちを見守ってくれていると思う方が子どもらしい暮らしのように考えられる。

今回のモノグラフではこうした問題意識をふまえて、高校生が合理と非合理との間で、生や死に代表される現象を、どう感じているのかをとらえようと思った。



高校生にとっての生と死

要 約

第1章 小・中学生の頃の体験

① 小学生の頃の体験

友だちとの遊び体験は全体に高い。男子は「家でテレビゲームをした」や「野球などのチームに属した」者が多い。自然体験では女子の活発さが目立つ。(p.9 表1 - 1、p.10 図1 - 1)

② 小学生の頃のテレビ・テレビゲーム

女子は名作アニメを好み、男子は戦闘的なアニメを好む。テレビゲームでは、アクションゲーム以外は男子の遊びと言える。(p.13 図1 - 2、p.15 表1 - 5)

③ 叱られ体験・病気体験

「先生からきつく叱られた」は男子が半数を超えるのに対し、女子は4割以下。本人の入院体験は3割であるが、家族の入院、家族や親族の死の体験は7割を超す。(p.18 図1 - 3、p.20 表1 - 9)

④ 自分のタイプ

「テレビをよく見た」が最も多く、「外遊びが好きだった」では男子が女子を、「塾や習い事が多かった」では女子が男子を上回る。(p.22 図1 - 4)

第2章 高校生の「身体感覚」と「生」

① 体力への自信

体力に「とても自信がある」というのは6.9%。約60%の生徒は体力に「あまり」または「まったく自信がない」と答えている。(p.28 表2 - 1)

② 心身の健康の状態

心身の健康について「よくある」「かなりある」ことでみると、「寝不足になる」76.2%、「何となく体がだるい」66.9%のように、今の高校生は、やや「疲れ気味」のようである。また、「責任のあることにかかわりたくないと思う」48.7%、「むしゃくしゃしたりイライラする」46.5%のように、毎日の生活がストレスを生みやすいものであることがうかがわれる。(p.28 表2 - 2)

③ 心身の健康の状態と部活動・成績

心身の健康や体調は、部活動への参加状況や成績との間に関連がみられる。「寝不足になる」「何となく体がだるい」「何かをする気力がなくブラブラすごす」というのは、「文化部だがサボりぎみ」の生徒に目立つ（それぞれ70%以上）。この傾向は「運動部だがサボりぎみ」の生徒にもみられる。成績別にみると、上の3つの項目では成績下位の生徒に目立っている。（p.31 表2 - 4、p.33 表2 - 5）

④ 心身の健康の状態と友人

心を打ち明けて話せる友人がいないと答える生徒たちの中には、「何かをする気力がなくブラブラすごす」「今の自分は本当の自分ではないと思う」と感じている者が目立つ。友人関係が高校生の「自己」を確認する上で大きなウエイトを持っていることがわかる。（p.33 表2 - 5）

⑤ 健康のためにしていること

自分の健康に関して、「3食きちんと食事をとる」（「いつも」+「かなり」）のは生徒の9割弱。しかし、「睡眠時間をきちんととる」「適度の運動を欠かさない」などは5割以下で、健康や身体への配慮が十分なされていない大きな層が存在する。（p.35 表2 - 6）

⑥ 体や健康についてできること

自分の体や健康についてできることをみると、約9割の生徒が「風邪をひかないために予防する」、約8割が「傷で出血したときに

自分でとめる」ことができるとしている。ただし、「体のだるさで病気なのかを判断することができるのは約5割。ここでもやはり、自分の健康状態について自律して対処できない層の存在をみることができる。（p.35 表2 - 7）

⑦ 体や健康と小学校時代の過ごし方

このような自分の体や健康についてできることについては、小学校時代の遊び体験が多少関連しているようである。また、「家庭のあたたかさ」という子ども時代の家庭の雰囲気は、体や健康についてできることとの関連が深いようである。（p.37 表2 - 9、p.38 表2 - 10）

⑧ 自分の体にしてみたいこと

髪を染めたりダイエットをするなど、自分の身体を操作することについては男女差がみられ女子に多いが、その壁は低くなってきているようである。これを成績別にみると、成績の低い者に多くみられる。生徒たちの身体への意識が学校という「パイアス」によっても影響を受けているようである。（p.39 表2 - 11、p.40 表2 - 12）

⑨ 気になること

人の触ったつり革や自分や相手の汗・体臭など、身体に対する意識は女子に強くみられる。また、小学校時代に「近くの空き地や原っぱなどでよく遊んだ」者は、これらに対してやや許容的な傾向がみられる。（p.41 表2 - 13、p.42 表2 - 14）

第3章 高校生と超現実世界

① 死や超現実世界に関する考え方

3～7割の高校生が、死後の世界を含む超現実世界を信じている傾向がある。また、それは基本的に女子に多い。(p.44 表3-1、p.45 表3-2、p.47 表3-4、p.48 表3-5)

② 超現実世界の意味

学校の成績や友人関係、さらに小学生時代の自然環境、友だちとの遊び、家庭の雰囲気における問題は超現実世界を信じることに直接関係していないが、アイデンティティの未発達は関係している。(p.51 表3-7)

第4章 死生の感覚

① 死の願望

死にたいと思ったことのある者は38.3%、男子より女子の方が多い。(p.54 表4-1)

② 死にたいと思った時期

死にたいと思ったことのある者のうち27.0%が小学生の時に経験。これは全体の約10%にあたる。(p.58 表4-3)

③ 死にたかった理由

友人関係、家族関係など対人関係の悩みが多いが、人生に疲れたとか自己嫌悪に陥っているものもある。

④ 死の恐怖感

47.5%が強い恐怖感を持ち、全体の77.3%が死を恐れている。ぜんぜん怖くないのは10%以下である。(p.62 図4-3)

⑤ 自殺観

自殺を否定する者は80%以上。肯定する者も17.8%いる。(p.62 図4-4)

⑥ 逃避手段になるか

死が苦しみ悩みから解放してくれる手段になると考える者は少数。「ややそう思う」と期待する者は23.2%いる。(p.63 図4-5)

⑦ 科学と死

科学による難病克服の期待は85.0%もある。(p.64 図4-6)

⑧ 生への畏敬

自然の生命を尊重すべきとする者は圧倒的多数である。(p.65 図4-7)

⑨ 宗教への関心

宗教について考えたことのある者は30.3%で、考えたことのない者の方が41.0%で多い。(p.67 表4-6)

⑩ 信教の自由

宗教を信じる信じないは自由であると考えている者は多い。(p.68 表4 - 7)

⑪ 宗教の安心感

宗教の効用としての安心感はあまり認められていない。むしろ過半数が否定的である。(p.69 表4 - 8)

⑫ 宗教への依存度

「頼りになる」が13.0%で、「頼りにならない」が60.2%である。特に現実の生活に満足している者は宗教に依存しない傾向がある。(p.70 表4 - 9、図4 - 10)

⑬ 葬儀と宗教

宗教が「役立つ」とするのはわずか14.9%、「役立つたない」とするのは49.6%で、将来の葬儀の無宗教化が考えられる。(p.71 表4 - 10)

⑭ 宗教はよくわからない

約3分の2が「わからない」と否定的である。それを否定している肯定派は、わずかに13.2%である。(p.72 表4 - 11)

〔調査概要〕

対象 広島・徳島・岡山・千葉・福島・山形の公立高校1～3年生2,216名(男子1,125名、女子1,080名、不明11名)

時期 1997年4月～5月

方法 学校通しによる質問紙調査

〔執筆分担〕

序章・まとめに代えて

深谷昌志(尚美学園短期大学教授)

第1章

木下 勉(東京都立上野高等学校教諭)

第2章

吉川杉生(明治学院大学非常勤講師)

第3章

大野道夫(大正大学講師)

第4章

尾澤弘恒(桜美林高等学校教諭)

第1章

小・中学生の頃の体験

毎年、入学したての高校1年生に「自分史からみた現代史」という授業をしている。高校入学時から逆算させて自分の生まれた頃までの15年前後の年次を縦にとり、横は自分のこと、家族のこと、そして地域のこと、日本のこと、さらに世界のことと5項目を指定した表を作らせ、まずは自分の記憶を基に記入、次いで教科書や資料集を使って調べさせる。その上で、どれか1つの項目に注目させて15年間の流れを考えさせようというものである。

年々驚かされるのは、生徒が自分の記憶に基づいての事象を明確に書けなくなってきたことである。「何か思い出して書きなさい」と言うと、中学時代はともかく、小学生の頃についてはほとんど書けない。入学して日が浅く緊張の中での授業であること、授業とい

うフォーマルな時間の中でプライベートなことはあまり書きたくないということもあるだろうが、それにしても何年生の時にどんな経験をし、どんなことが起こったかという記憶に乏しい。そんな彼らの希薄な記憶の中で明確に印象づいていることは、自分のけがと身内のお葬式である。年月日までそらんじている生徒も多い。それだけ、けがや身内の死との遭遇体験は、子どもの心に大きな印象を与えているのであろう。

そうした高校生の生・死に関する意識をさぐる上で、彼らがどのような小・中学生時代をすごしてきたのか、また、どのような自然環境・社会的環境の下で育ってきたのかをまず調べてみたい。

1 小学生の頃の体験

少子化の下で子どもたちが孤立気味であるということが指摘されて久しい。それと同時に、1983（昭和58）年に任天堂のファミリーコンピュータが発売されて以後、子どもたちの遊びの形態が大きく変わったともいわ

れている。東京都が1988年11月に実施した「大都市青少年のニューメディアとのかかわりに関する調査」によれば、小・中学生の61%が「テレビゲームを数え切れないほどした」と答えている。現在の高校生はまさにそ

んな分析の対象者として育ってきた子どもたちである。ここでは、今までとは異質な環境の中で成長してきた高校生が、小学生の頃の体験をどのようにとらえているかについて検討してみたい。

今回の調査は地方の県立高校が中心となった。小学生の頃どのようにすごしたかを全体でみると、「便利な町中で暮らした」は「とてもそう」と「少しそう」を合わせて47.9%。また、「恵まれた自然環境の中で暮らした」は同じく88.7%である(表1-1)。つまり、都会にはない自然に恵まれた地方都市、あるいはその周辺で育った生徒が調査対象と言え

る。

さらに男女別でみると、男子が女子よりも明らかに高いものは、「家でテレビゲームをした」と「野球やサッカーのチームに属した」の2項目のみである。女子の活発さが目立つ調査結果である。

また、成績別では、上位者が「近くの空き地や原っぱで遊んだ」「家でテレビゲームをした」「野球やサッカーのチームに属した」において高く、成績中・下位者は「たくさんの友だちと遊んだ」が多いために「友だち同士でけんかをした」率もまた高い。

表1-1 小学生の頃どのように過ごしたか × 性・成績

(%)

	全 体	性 別		成 績 別				
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下
たくさんの友だちと遊んだ	91.4	91.3	91.5	<u>90.5</u>	90.6	91.7	<u>93.0</u>	90.9
かくれんぼや鬼ごっこをした	90.8	88.0	< 93.6	89.0	90.4	<u>91.7</u>	91.6	<u>88.7</u>
恵まれた自然環境の中で暮らした	88.7	86.0	< 91.4	88.2	89.2	89.4	<u>89.7</u>	<u>85.5</u>
近くの空き地や原っぱで遊んだ	80.1	80.8	79.5	<u>83.4</u>	79.1	81.2	81.2	<u>77.3</u>
友だち同士でけんかをした	70.0	63.4	< 77.0	68.5	<u>66.3</u>	70.6	<u>72.4</u>	71.0
家でテレビゲームをした	59.4	75.1	> 37.0	<u>63.0</u>	<u>54.6</u>	58.4	<u>54.6</u>	56.4
便利な町中で暮らした	47.9	48.5	47.3	<u>51.9</u>	46.7	50.0	<u>45.8</u>	46.3
犬や猫などのペットの世話をした	46.8	43.1	< 50.7	42.5	48.5	<u>49.4</u>	<u>41.9</u>	47.3
野球やサッカーのチームに属した	38.4	59.1	> 16.7	<u>46.5</u>	39.9	37.6	<u>35.8</u>	40.1

「とても」+「少し」そうの割合

○は最大値 ～は最小値

図1 - 1は小学生の時の自然体験を男女別にグラフ化したものである。差異がはっきりしたものは「子犬や子猫を抱き上げた」「ど

ろんこ遊びをした」「夕焼け空に感動した」の3項目である。総じて女子の活発さをここでも認めることができる。

図1 - 1 小学生の時の自然体験 × 性

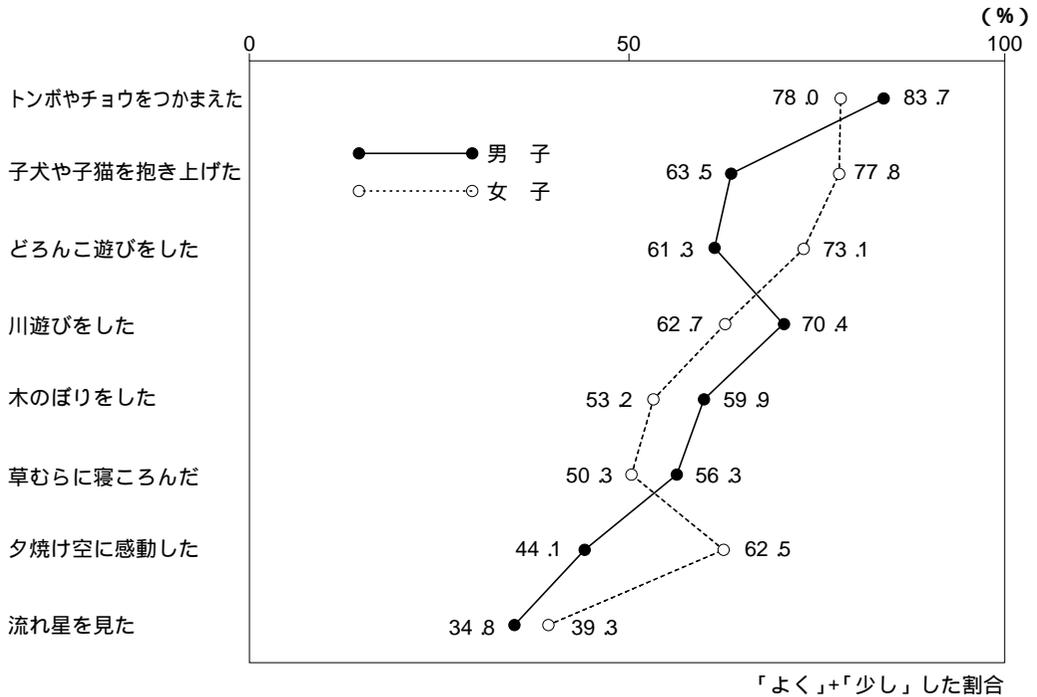


表1 - 2は成績別にまとめたものである。成績上位者が多くの項目で体験率が高いのに対し、中位者は多くの項目で体験率が最も低

い。下位者は「木のぼりをした」が他より高く、また他の項目でも相対的に高い経験を示している。

表1 - 2 小学生の時の自然体験 × 成績

	全 体	成 績 別				
		上	中の上	中	中の下	下
トンボやチョウをつかまえた	81.0	83.4	81.4	80.6	79.8	83.1
子犬や子猫を抱き上げた	70.6	63.8	68.2	73.1	69.7	72.7
どろんこ遊びをした	67.2	73.3	67.9	64.8	69.9	66.4
川遊びをした	66.8	70.8	69.3	63.4	70.0	65.2
木のぼりをした	56.6	61.5	55.5	52.7	58.7	62.0
草むらに寝ころんだ	53.3	59.1	54.1	49.9	56.7	52.8
夕焼け空に感動した	53.0	54.8	61.1	49.9	49.0	53.2
流れ星を見た	37.0	41.8	36.8	35.4	36.6	38.3

「とても」+「少し」した割合
○は最大値 ～は最小値

表1-3は小学生の頃の家庭体験をまとめたものである。

今回の調査対象が地方であるためか、祖父母との同居率は「いつもそう」と「たまにそう」を合わせて51.3%、常に同居している率は44.3%である。これは『モノグラフ・高校生』vol.41「高齢化社会と高校生」の1994年調査では36.8%であることと比べると、高い率である。

また「お彼岸やお盆に先祖の墓参りに行った」は、「いつもそう」が72.6%、「たまにそう」を合わせると90.0%に上る。女子は男子に比べ、「日曜日などの休日は家族とすごした」率が10%高く83.3%、家庭が「あたたかい雰囲気だった」は女子が92.5%、男子が87.5%である。成績別では、中位者が「あたたかい雰囲気だった」が約90%前後で

あるのに対し、上位者と下位者は80%前半である。上位者は「夕食は家族そろって食べた」「祖父母と一緒に暮らした」がより多い。下位者は「日曜日などの休日は家族とすごした」が他より高い数値になっている反面、「夕食は家族そろって食べた」率は最も低くなっている。

全体としてみれば、やはり地方の高校生を対象とした調査だけに、小学生の頃の自然体験や家庭体験は思ったより高い率を示している。「友だちとのかくれんぼや鬼ごっこ、原っぱで遊んだ」は結構高い比率（80～90%）である反面、「家でテレビゲームをした」が59.4%という結果であり、男子だけみても75.1%と思ったより低い。また、「野球やサッカーのチームに属していた」男子は約60%である。

表1-3 小学生の頃の家の様子 × 性・成績

	(%)							
	全 体	性 別		成 績 別				
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下
お彼岸やお盆に先祖の墓参りに行った	90.0	89.9	90.0	89.0	90.7	89.4	90.7	89.2
あたたかい雰囲気だった	90.0	87.5	< 92.5	<u>83.4</u>	92.0	93.6	88.5	84.8
夕食は家族そろって食べた	87.7	87.8	87.7	92.2	90.4	86.7	90.1	<u>82.0</u>
日曜日などの休日は家族とすごした	78.0	73.2	< 83.3	78.0	79.8	80.0	<u>76.9</u>	83.5
祖父母と一緒に暮らした	51.3	53.0	52.8	66.5	53.0	<u>52.2</u>	54.4	53.8

「いつも」+「たまに」その割合
○は最大値 ~~~は最小値

2 小学生の頃のテレビ・テレビゲーム

図1 - 2は、小学生の頃見たテレビ番組を男女別にグラフ化したものである。

「名作アニメ」は女子が男子より約20%多

く、「戦闘的なアニメ」は男子が女子より約47%多い。

図1 - 2 小学生の頃見たテレビ番組 × 性

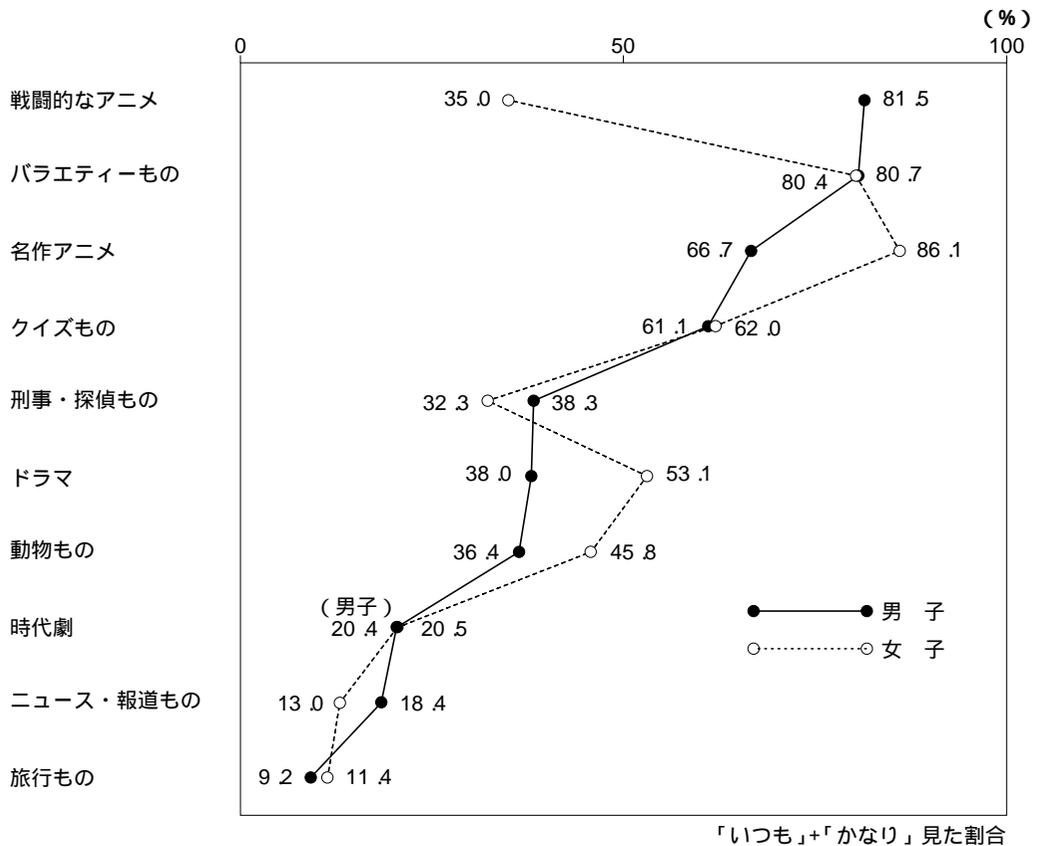


表1 - 4は、成績別にまとめたものである。上位者では「戦闘的なアニメ」の84.1%が目立つ。また成績の中位以下では、アンケー

ト⑦の結果(p.23)からもわかるように、テレビをよく見た率が高いだけに、ジャンルを問わず、いろいろなテレビ番組を見ている。

表1 - 4 小学生の頃見たテレビ番組 × 成績

	全 体	成 績 別				
		上	中の上	中	中の下	下
バラエティーもの	80.7	81.9	<u>78.8</u>	80.0	(83.5)	79.3
名作アニメ	76.2	<u>67.7</u>	73.4	(80.6)	76.1	74.6
クイズもの	61.5	60.6	64.5	60.8	(65.1)	<u>54.9</u>
戦闘的なアニメ	58.8	(84.1)	57.8	<u>57.0</u>	57.2	62.7
ドラマ	45.3	43.3	<u>42.7</u>	44.9	(47.5)	46.3
動物もの	40.8	(44.1)	41.9	40.1	<u>39.5</u>	42.6
刑事・探偵もの	35.4	41.0	33.6	35.0	<u>30.9</u>	(42.1)
時代劇	20.5	20.5	21.0	20.8	<u>19.0</u>	(22.7)
ニュース・報道もの	15.7	(18.1)	17.5	14.6	16.9	<u>13.0</u>
旅行もの	10.2	10.2	11.4	9.7	<u>7.4</u>	(12.7)

「いつも」+「かなり」見た割合
○は最大値 ~~~は最小値

表1 - 5は小学生の頃やったテレビゲームである。男子が全面的に女子を上回る。というより、テレビゲームは男子の遊びという感

がある。成績別には上位者が多くの項目で他をリードしているが、「アドベンチャーゲーム」だけは中位者が最も多い。

表1 - 5 小学生の頃やったテレビゲーム × 性・成績

(%)

	全 体	性 別		成 績 別				
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下
アクションゲーム	70.3	80.0	60.2	73.2	69.7	71.9	68.4	70.7
ロールプレイングゲーム	46.2	72.4	18.9	59.8	44.7	46.8	43.7	47.9
シューティングゲーム	39.3	55.1	22.7	51.1	38.9	38.7	37.5	41.1
対戦アクションゲーム	37.9	56.2	18.8	48.0	35.2	36.9	37.5	40.1
アドベンチャーゲーム	32.3	43.7	20.8	29.3	31.3	34.6	32.0	32.0
シミュレーションゲーム	14.3	24.8	3.4	19.7	16.8	12.1	11.7	17.2

「いつも」+「かなり」やった割合
○は最大値

表1 - 6、表1 - 7は「名作アニメ」「戦闘的なアニメ」をどのようなタイプの生徒がよく見ていたかをまとめたものである。小学生の頃の様子別（表1 - 6）では、「名作アニメ」をよく見ていたのは「ペットの世話をした」者が79.2%で最も高く、「家でテレビゲームをした」「野球やサッカーのチームに属した」者が共に73%台で最も低い。逆に「戦闘的なアニメ」は、「家でテレビゲームをした」「野球などのチームに属した」者が共に70%台で最も高く、「犬や猫などのペットの世話をした」者が57.4%と最も低い。

自然体験別（表1 - 7）では、「夕焼け空に感動した」体験を持つ生徒は82.6%が

「名作アニメ」を見ており、逆に「戦闘的なアニメ」は56.6%しか見ていない。これは男女差に基づくところが大きいですが、その他にも性格的な要因も考えられる。

1991年の湾岸戦争の際、テレビを通じてお茶の間に流された「戦争」が大きな話題となった。戦争のシーンばかりでなく、テレビは日常的に殺人や暴力的シーンをお茶の間に流し続けている。米国では子どもが成人するまでの間にテレビの報道やドラマなどの番組を通じて約1万人余りの殺人あるいは死体を見せられることになるということがある。日本のテレビ番組も同じような状況にあると言える。

表1 - 6 小学生の頃の様子（とても+少しそう）
× アニメ（いつも+かなり見た）（%）

	名作アニメ	戦闘的なアニメ
犬や猫などのペットの世話をした	79.2	57.4
かくれんぼや鬼ごっこをした	78.1	58.5
友だち同士でけんかをした	78.0	59.0
近くの空き地や原っぱで遊んだ	77.9	60.5
恵まれた自然環境の中で暮らした	77.6	58.5
たくさんの友だちと遊んだ	76.9	60.9
便利な町中で暮らした	76.5	58.0
家でテレビゲームをした	73.8	70.9
野球やサッカーのチームに属した	73.6	73.9

○は最大値

さらに日本の場合、主要な輸出品目の1つともなっているアニメーションが、暴力的であるということで世界から批判を受けている。確かに男子の81.5%がよく見たとする「戦闘的なアニメ」や、よくやったとする「対戦アクションゲーム」はかなり暴力的なもので、子どもたちに大きな影響を与えているのではなかろうか。ごくまれに高校生同士のけんかが殴り合いに発展したのを目撃したことがあるが、その殴り方やけり方は、アニメ的(テレビゲーム的)な印象を受けた。手ひどい殴り方、けり方である。

運動会における騎馬戦や、棒倒しなどの種

目においても、程度を考えずにエキサイトしすぎることを理由に、競技種目から外している学校が増えているとも聞く。

けんかにしる騎馬戦にしる、アニメやテレビゲームの影響を受けて自制心をなくす者はごく少数の者にすぎないことはわかる。しかし、おもしろければなんでも許されるというような風潮の今のアニメやテレビゲームのあり方は、もっと製作段階で自制されるべきだと思う。同時に、受け手である家庭においても、選択の基準をもっと厳しくするべきではないかと考える。

表1 - 7 小学生の時の自然体験(よく+少しした)
× アニメ(いつも+かなり見た) (%)

	名作アニメ	戦闘的なアニメ
夕焼け空に感動した	82.6	56.6
どろんこ遊びをした	79.9	58.7
草むらに寝ころんだ	79.6	63.1
流れ星を見た	79.1	59.0
川遊びをした	78.3	62.3
子犬や子猫を抱き上げた	78.6	57.8
木のぼりをした	77.9	63.1
トンボやチョウをつかまえた	77.3	61.7

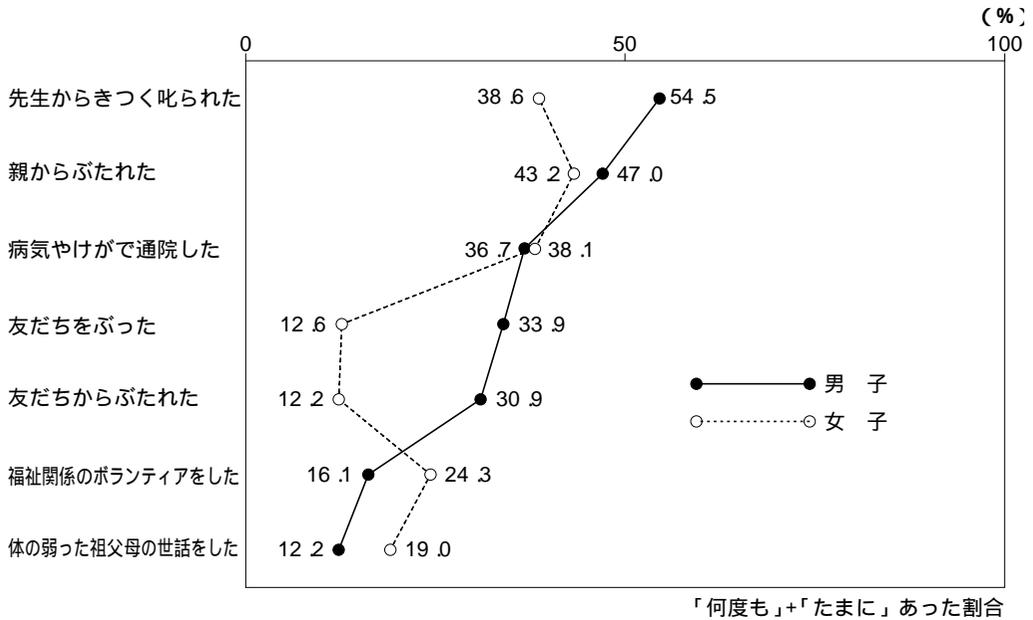
○は最大値

3 叱られ体験・病気体験

図1 - 3は、7項目でこれまでの経験を問うたものである。男子は女子より約16%上回って、54.5%が先生からきつく叱られている。

「親からぶたれた」は3.8%しか差がない。男子の33.9%が「友だちをぶった」経験を持つ。逆に30.9%が友だちからぶたれてい

図1 - 3 これまでの経験 × 性



る。小学生の頃はささいなことでぶったりぶたれたりするものと思っていたから、これらの数値は意外に少ない気がする。

高校生をみても、お互いに目立つことを極力避け、浅く広くという人間関係を心がけている傾向がある。前述のように「たかさんの友だちと遊んだ」91.4%、「友だち同士

でけんかをした」70.0%といっても存外、薄い人間関係なのかもしれない。

表1 - 8は、成績別にまとめた。「先生にきつく叱られた」「親からぶたれた」「友だちからぶたれた」は共に下位者が最も高い数値となった。

表1 - 8 これまでの経験 × 成績

	全 体	成 績 別				
		上	中の上	中	中の下	下
先生からきつく叱られた	46.8	51.9	39.3	42.4	48.5	59.7
親からぶたれた	45.2	42.5	41.7	41.7	48.5	50.8
病気やけがで通院した	37.3	40.2	38.1	35.9	36.7	38.7
友だちをぶった	23.5	29.3	20.8	20.7	25.0	28.1
友だちからぶたれた	21.7	22.0	19.0	20.5	23.7	26.1
福祉関係のボランティアをした	20.1	19.7	20.1	20.8	20.2	18.0
体の弱った祖父母の世話をした	15.6	15.7	12.2	15.2	19.0	15.4

「何度も」 + 「たまに」 あった割合
○ は最大値

表1 - 9はこれまでの入院や、死に関する体験をまとめたものである。「病气やけがで入院した」が32.0%である。これは男子が女子より多いが、他の項目は女子が男子より

多くなっている。「家族や親族が亡くなった」が76.1%、「お葬式で人の死に顔を見た」が69.0%もいる。

表1 - 9 これまでの入院・死に関する体験 × 性・成績

(%)

	全 体	性 別		成 績 別				
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下
家族以外の親しい人が入院した	76.2	73.2	< 79.2	69.3	(77.3)	76.6	75.2	76.3
家族や親族が亡くなった	76.1	74.8	77.6	76.3	72.5	(78.7)	75.5	75.1
家族のだれかが入院した	76.0	73.8	< 78.5	70.9	75.0	(76.8)	74.9	76.5
お葬式で人の死に顔を見た	69.0	68.3	69.7	(72.3)	66.4	70.8	68.1	68.7
飼っているペットが死んだ	57.2	54.3	< 60.4	49.6	(59.5)	57.2	57.0	56.8
家族以外の親しい人が亡くなった	43.6	43.2	44.1	40.8	44.1	43.9	41.8	(47.0)
病气やけがで入院した	32.0	34.5	> 29.9	27.5	32.0	29.3	33.3	(36.4)

「2回以上」+「1回」あった割合
○は最大値

表1 - 10は、小学生の頃の様子別にみた体験をまとめた。「家でテレビゲームをした」「野球やサッカーのチームに属した」「友だち同士でけんかをした」者は、親からぶたれた

り、先生からきつく叱られたりでは、他よりやや高い数値を示している。通院・入院・家族や親族の死は、「ペットの世話をした」者に、より高い体験率となっている。

表1 - 10 小学生の頃の様子(とても+少しそう) × 体験(何度も+たまにあった)
(*は2回以上+1回あった)

(%)

	親から ぶたれた	先生からきつく 叱られた	病気や けがで通院	病気や* けがで入院	家族や* 親族の死	ペット* の死
恵まれた自然環境の中で暮らした	44.7	45.5	37.6	32.1	76.7	57.7
便利な町中で暮らした	45.0	46.0	37.3	30.3	74.7	55.3
近くの空き地や原っぱで遊んだ	45.3	47.4	38.1	33.1	76.3	58.4
かくれんぼや鬼ごっこをした	45.2	45.9	38.1	32.2	75.9	57.6
家でテレビゲームをした	46.6	50.9	38.2	32.8	76.0	56.5
野球やサッカーのチームに属した	46.5	53.4	36.9	32.9	76.2	57.3
犬や猫などのペットの世話をした	46.7	46.6	39.1	34.0	78.0	76.3
たくさんのお友達と遊んだ	45.1	46.8	37.3	32.2	76.1	56.9
お友達同士でけんかをした	48.7	51.7	39.5	32.7	76.1	57.8

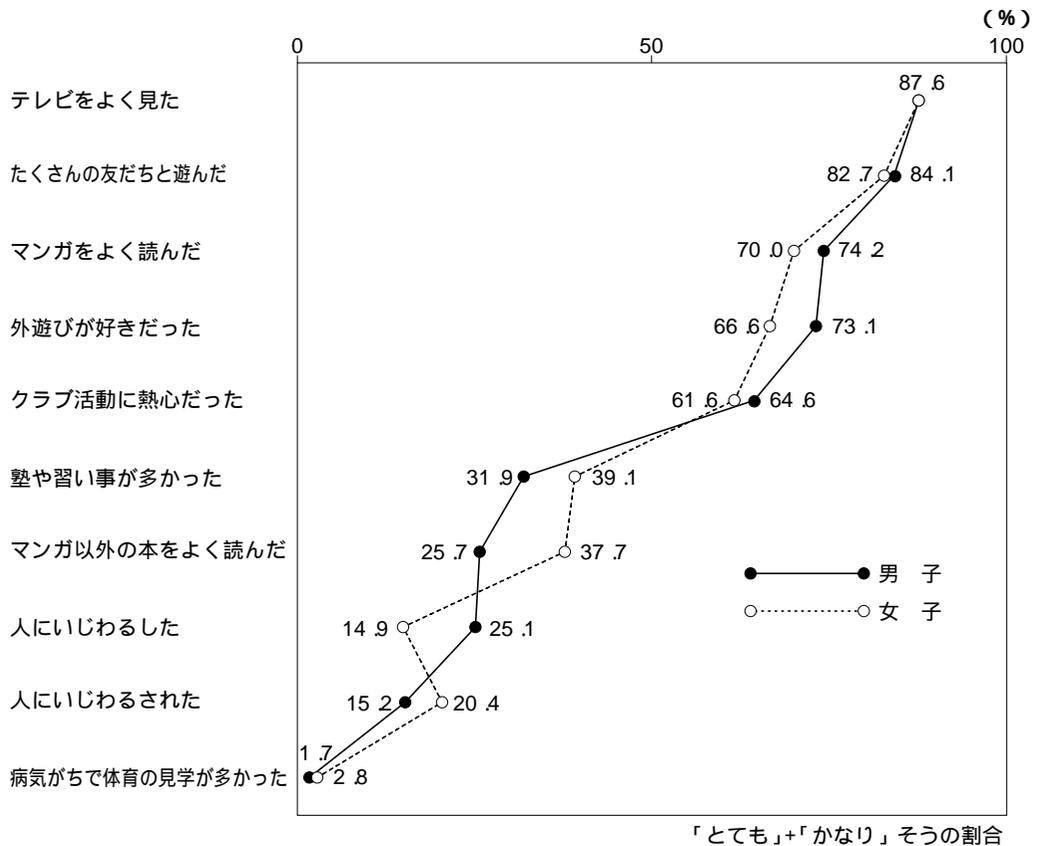
○は最大値

4 小・中学生の頃の自分のタイプ

図1-4は、小・中学生の頃のタイプを男女別にグラフ化したものである。男女ともに

「テレビをよく見た」がトップ項目で87.6%である。「外遊びが好き」が男子73.1%で、

図1-4 小・中学生の頃のタイプ × 性



女子より6.5%上回る。逆に女子は「塾や習い事」で7.2%、「マンガ以外の読書」で12.0%男子を上回る。「人にいじわるした」は男子が25.1%、女子が14.9%、「人にいじわるされた」は女子が20.4%、男子が15.2%である。

表1-11は成績別にまとめたものである。

上位者に「外遊びが好き」「クラブ活動に熱心」の数値が高く、それらを活発にやってきたことがうかがえる。中位者は「テレビをよく見た」「マンガをよく読んだ」の数値が高く、下位者では数値は多くないものの他に比べ、いじわるしたり、されたりの数値が目立つ。

表1-11 小・中学生の頃のタイプ × 成績

	全 体	成 績 別				
		上	中の上	中	中の下	下
テレビをよく見た	87.5	84.2	84.7	89.9	87.7	85.7
たくさんの友だちと遊んだ	83.5	83.5	80.7	83.0	86.6	83.1
マンガをよく読んだ	71.9	70.9	71.6	76.9	69.5	66.6
外遊びが好きだった	70.1	71.7	71.4	68.3	62.6	71.2
クラブ活動に熱心だった	63.3	66.9	65.0	65.4	62.7	59.5
塾や習い事が多かった	35.5	33.8	39.1	35.9	33.0	34.8
マンガ以外の本をよく読んだ	31.4	33.8	35.7	30.2	30.3	30.9
人にいじわるした	20.0	25.2	22.9	15.7	18.5	25.3
人にいじわるされた	17.8	18.1	18.1	15.4	18.6	20.5
病気がちで体育の見学が多かった	2.3	3.9	1.6	1.6	2.7	3.1

「とても」+「かなり」その割合
○は最大値

表1 - 12は小学生の頃の様子とタイプをクロスさせたものである。こうしてみると、「家でテレビゲームをした」者も一応、他の層にやや劣るものの「外遊びが好き」であり、「たくさんの友だちと遊んだ」経験を持って

いる。すなわち家にこもって、マニアックにテレビゲームばかりやっているのではなく、ごく普通の子どもがテレビゲームに熱中している姿が浮かんでくる。

表1 - 12 小学生の頃の様子(とても+少しそう) × タイプ(とても+かなりそう)

(%)

	外遊び 好き	たくさんの友 だちと遊んだ	人にいじ わるされた	人にいじ わるした	塾・習い事 が多かった
恵まれた自然環境の中で暮らした	72.2	84.8	16.6	19.0	35.5
便利な町中で暮らした	73.5	86.1	18.9	19.8	37.4
近くの空き地や原っぱで遊んだ	75.3	85.4	17.8	20.3	33.7
かくれんぼや鬼ごっこをした	72.9	85.0	17.9	19.9	35.8
家でテレビゲームをした	70.1	83.4	17.3	22.5	36.1
野球やサッカーのチームに属した	77.8	86.5	15.2	23.9	35.4
犬や猫などのペットの世話をした	72.7	84.2	18.7	20.3	36.3
たくさんの友だちと遊んだ	73.8	89.5	16.6	19.7	36.0
友だち同士でけんかをした	74.0	86.9	21.1	24.0	37.6

○は最大値

5 まとめ

高校生の生命観・死に関する意識の調査をするために、この章では小学生の頃を中心どのような自然体験・家族体験を持っているか、また遊びやテレビ番組・テレビゲームの体験、さらには病気やけがによる入院、身近な人の死やペットの死の体験を調べた。

調査の結果、確かにテレビを見ることが多く、テレビゲームにも時間を費やしているが、一方、子どもらしい遊びや感動の経験も、意

外に多く持っていることがわかった。

しかし、その背景には今回の調査が単に地方の高校生を対象としたものだから体験が豊富であるというだけでなく、例えば、川遊び体験や女子のどろんこ遊び体験が高率であるのは、学校や、地域の子ども会、さらに家庭など、周囲のおとなたちの努力に支えられている部分が大きいのではないかということが推測できる。

第2章 IIIII

高校生の「身体感覚」と「生」

前章では高校生の「生と死」のとらえ方の前提として、これまでの彼らの生活体験をみてきた。それを踏まえながら、ここでは高校生の「健康や身体」といった問題を手がかりにして、特に「生」についての彼らの現実感を検討してみたい。元来、身体は快や痛みといった具体的な感覚と結びつくことで自己の生を実感する基盤であり、また自己の身体と

他者のそれとの結びつき、触れ合いの中で生を確かめる術でもあった。これに対して、今の高校生たちが受けとめている「身体感覚」は、私たちにどのような「生」の姿を提示しているのだろうか。以下では、個々の生徒の「生」の受け止め方を左右する要因も含めて彼らの「現実」をとらえ直してみたいと思う。

1 高校生の健康と身体

(1) 心身の健康の現状

高校生の「身体」と「生」を考える上で、まずはじめに「心身の健康」という点から、彼らの全体的なプロフィールをとらえておきたい。

表2 - 1は、「体力についての自信」からそれを見たものである。これでわかるように全体では体力に「とても自信がある」という者は6.9%と少なく、むしろ約60%の者が体力に自信がないと答えている（あまり+まったく自信がない）。もちろん体力が、健康についての全ての指標ではないが、今の高校生

には、健康の基本としての体力にやや不安がみられるということであろうか。

この傾向は、学年別ではあまり差がみられないが、性差による違いをみることができる。男女ともに、どちらかといえば「体力に自信がない」と答える者が多いのは変わらないが、そう答える者の割合は男子57.1%：女子65.3%で、女子にその割合が高いことがわかる。

一方、健康の問題を日常生活での場面からとらえたのが表2 - 2である。これは、それぞれの項目について「よくある」「かなりある」と答えた者の割合をみたものだが、全体では「寝不足になる」76.2%、「何となく体

がだるい」66.9%、「何かをする気力がなくブラブラすごす」57.3%のように、今の高校生はやや「疲れぎみ」のようである。ただし、この結果はこれまでの「高校生の健康状態」を指摘したいいくつかの調査からみれば、調査校の特異な数字とは言えないだろう。

この他、約半数の生徒たちは「責任のあることにかかわりたくないと思う」(48.7%)あるいは「むしゃくしゃしたりイライラする」(46.5%)ということが日頃の生活の中で「よくある」「かなりある」と答えている。彼らにとって、毎日の生活がストレスを生みやすいものでもあることがうかがわれる。

こうした項目の中には、性別によって差のあるものもある。上にあげた5つの項目のうち上位2つは男女ともに1、2位を占めるが、男子ではこれに次ぐのが「責任のあることにかかわりたくないと思う」54.7%で、以下「何かをする気力がなくブラブラすごす」52.8%、「むしゃくしゃしたりイライラする」42.4%、「今の自分は本当の自分ではないと思う」42.1%、「ささいなことで人に当たる」25.9%、「食欲がない」21.6%の順になっている。

これに対して、女子では「何かをする気力がなくブラブラすごす」62.4%が3位で、以下「むしゃくしゃしたりイライラする」50.7%、「責任のあることにかかわりたくないと思う」42.3%、「今の自分は本当の自分ではないと思う」38.3%、「ささいなことで人に当たる」37.6%、「食欲がない」16.9%の順になっている。

つまり、男子の側に「責任のあることにかかわりたくない」ということ、そして女子の側には「何かをする気力がなくブラブラすごす」あるいは「むしゃくしゃしたりイライラする」といった項目が目立っている。これを「心の問題」として安易に語ることは避けたいが、ここでの数字をみる限り、高校生を取り巻く現実は多かれ少なかれ「むしゃくしゃさせるようなもの」であり、これに対して彼らは「ブラブラ」したり「責任を回避」したりといった、独自の間の取り方をしているように思われる。

学年別にみると、全体で最も多かった「寝不足になる」は、1年生が79.9%と一番多かった。それ以外の項目では表中の最大値を示す○印にみられるように、上級生、特に3年生の占める割合が目立っている。その差は項目によっては必ずしも大きいとは言えないものもあるが、彼らが肉体的にも精神的にも不安定であることをうかがわせる。特に「今の自分は本当の自分ではないと思う」と答える生徒が1年生で36.5%、それが2年生42.6%、3年生44.2%と上級生ほど多くなっていることは、日々彼らと接し指導する立場にある者としては留意しておきたい点である。

これに対して、学年全体を通じて差がみられないのは「食欲がない」という項目で、こう答えているのは、各学年共20%弱の生徒たちであった。

表2 - 1 体力への自信 × 学年・性

(%)

	全体	学年別			性別	
		1年	2年	3年	男子	女子
とても自信がある	6.9	6.5	5.5	9.3	8.4	5.1
かなり自信がある	32.2	32.4	32.2	31.8	34.5	29.6
あまり自信がない	49.4	50.4	50.5	46.4	46.8	52.4
まったく自信がない	11.5	10.7	11.8	12.5	10.3	12.9

表2 - 2 心身の健康の状態 × 性・学年

(%)

	全体	性別		学年別		
		男子	女子	1年	2年	3年
寝不足になる	76.2	74.8	78.1	79.9	72.6	74.1
何となく体がだるい	66.9	66.5	67.5	63.7	70.7	68.2
何かをする気力がなくブラブラ過ごす	57.3	52.8	62.4	52.0	61.0	62.3
責任のあることにかかわりたくないと思う	48.7	54.7	42.3	45.2	50.9	52.0
むしゃくしゃしたりイライラする	46.5	42.4	50.7	44.3	47.0	49.9
今の自分は本当の自分ではないと思う	40.4	42.1	38.3	36.5	42.6	44.2
ささいなことで人に当たる	31.5	25.9	37.6	30.2	29.2	35.7
食欲がない	19.3	21.6	16.9	20.0	18.7	18.8

「よく」+「かなり」ある割合
○は最大値

(2) 健康の状態と部活動、成績、友人関係

ところで、これまでみた各項目は、学校に関する要因と関連を持つのだろうか。そこで「体力への自信」を「部活動への参加状況」と「成績」と関連させたのが表2-3である。これで見ると、体力という点ではやはり運動系の部活動に参加している生徒に体力への自信を持つ者が多く、文化系や部活動に入っていない生徒は分が悪い。体力に「とても+かなり自信がある」とする者の合計では、運動系の部活動に参加している生徒の53.8%に

対し、文化系では25.6%、部活動に入っていない生徒では28.0%と大きな差がみられた。

一方、成績についてもそれぞれに差をみる事ができる。成績は本人に学年の中での自分の位置を聞き、それを「上」「中」「下」に分類し直した。「中」には「中の上」「中の下」が含まれている。これで見ると、体力に「とても+かなり自信がある」とする者の合計では、上45.6%、中39.5%、下34.8%というように、成績の上位者に体力に自信を持つ者が多いことがわかる。

表2-3 体力への自信 × 部活動への参加状況・成績

(%)

	部活動への参加状況			成績別		
	運動系	文化系	入っていない	上	中	下
とても自信がある	11.7	1.4	4.3	14.4	6.1	8.1
かなり自信がある	42.1	24.2	23.7	31.2	33.4	26.7
あまり自信がない	40.4	57.5	57.0	44.0	51.3	45.2
まったく自信がない	5.8	16.9	15.0	10.4	9.2	20.0

これに対して、健康に関する日頃の生活はどうだろうか。表2 - 4では、それぞれの項目を「部活動への参加状況」と関連させてみた。また、ここでは参加の程度を「積極的に参加」しているのか、「サボりぎみ」なのかまで踏み込んでみることにした。これによると、「寝不足になる」ことは部活動への参加の有無と程度にかかわらず生徒たち全体の傾向であることがわかるが、それ以外のところでは特に部活動への参加の「程度」と日頃の心身の状態に関連がみられた。

表中の2重の下線と1本の下線は、それぞれの項目についての1位と2位を示しているが、その多くは部活動には参加しているが「サボりぎみ」であるとした生徒たちである。

このうち「文化部だがサボりぎみ」という生徒は、「寝不足になる」「何となく体がだるい」「何かをする気力がなくブラブラすごす」という各項目で70%を超え、その他「責任あることにかかわりたくないと思う」60.1%、「むしゃくしゃしたりイライラする」54.3%、

「今の自分は本当の自分ではないと思う」50.4%を合わせた6項目で1位、他の2項目でも2位となっている。また、「運動部だがサボりぎみ」という生徒は、「ささいなことで人に当たる」41.0%、「食欲がない」26.2%で1位、その他3項目でも2位となっている。

その一方で、部活動に積極的に参加する生徒たちの数字は、相対的にみてかなり低いものにとどまっている。また部活動に入っていない生徒たちは、その理由を推察させる「何かをする気力がなくブラブラすごす」61.1%、「責任あることにかかわりたくないと思う」55.4%という項目でやや多いが、それ以外では部活動に積極的に参加する生徒たちに準じるような傾向にあり、以上の両者の中間に位置するようにも思われる。これらの点から言えば、「部活動」への参加の「程度」は彼らの自己実現にとって大きな意味を持っており、結果的にそれが生徒たちの日常生活を左右するものともなっているとと言えるだろう。

表2 - 4 心身の健康の状態 × 部活動への参加状況

(%)

	部活動への参加状況				
	運動部で積極的に参加	運動部だけがサボりぎみ	文化部で積極的に参加	文化部だけがサボりぎみ	入っていない
寝不足になる	76.9	70.0	<u>77.8</u>	<u>77.9</u>	76.1
何となく体がだるい	65.3	65.7	<u>67.9</u>	<u>75.2</u>	65.0
何かをする気力がなくブラブラ過ごす	46.1	<u>66.7</u>	57.9	<u>73.3</u>	61.1
責任のあることにかかわりたくないと思う	43.1	52.4	36.1	<u>60.1</u>	<u>55.4</u>
むしゃくしゃしたりイライラする	44.9	<u>51.4</u>	43.5	<u>54.3</u>	45.3
今の自分は本当の自分ではないと思う	37.3	<u>45.0</u>	40.4	<u>50.4</u>	38.3
ささいなことで人に当たる	29.7	<u>41.0</u>	30.1	<u>35.7</u>	30.4
食欲がない	15.5	<u>26.2</u>	18.6	<u>24.0</u>	19.7

「よく」+「かなり」ある割合
 —は1位、—は2位を示す

表2 - 5は、これらの項目を学校生活における成績と友人関係からみたものである。これで見ると、これまであまり差のみられなかった「寝不足になる」や「何となく体がだるい」という項目を含め、全ての項目で成績下位の生徒の訴えが目立つ。一方、成績上位者はほとんどの項目で訴えが少なく、特に「何かをする気力がなくブラブラすごす」については、上40.9%、中56.7%、下67.0%と大きな差がみられた。部活動とともに、学校での成績が高校生の日常生活における心身の健康や生活態度とも関連しているようである。

ただし、そのような中で「今の自分は本当の自分ではないと思う」とする者が上42.5%、中38.7%、下47.1%というように、成績上位の者にも比較的多くみられる。もう一度表を見れば明らかなように、「何かをする気力がなくブラブラすごす」「責任あることにかかわりたくないと思う」「むしゃくしゃしたりイライラする」という各項目も、成績下位の生徒に比べ少ないとはいえ、上位者にも40%前後の訴えがみられる。成績がよくて、その生徒の全てが自分自身の確かさを得ている訳ではないことにも配慮したい。

これに対して、生徒の友人関係のあり方は彼らの日常生活における心身の健康や生活態度とも関連しているのだろうか。ここでは必ずしも学校の友人とは限らないが、「心を打

ち明けて話せる友人」がいるのに関連させてそれをとらえてみた。ちなみに、心を打ち明けて話せる友人の数の割合は、「1人いる」11.0%、「2～3人いる」48.5%、「4～5人いる」17.5%、「6人以上いる」10.0%、「いない」13.0%である。

表2 - 5をみると、心を打ち明けて話せる友人が「いない」とする生徒では「何かをする気力がなくブラブラすごす」67.2%が他を大きく引き離している。また心を打ち明けて話せる友人が「いない」「1人いる」と答えた者を合わせてみると、「責任あることにかかわりたくないと思う」「今の自分は本当の自分ではないと思う」という訴えも目立った。このうち「今の自分は本当の自分ではないと思う」という項目についてみると、「1人いる」44.4%、「2～3人いる」38.5%、「4～5人いる」34.0%、「6人以上いる」32.3%、「いない」56.8%といよように、友人関係が彼らの「自己」を確認する上で大きなウエイトを持っていることがわかる。

これに対して、心を打ち明けて話せる友人の数との間に関連がみられない項目もある。具体的には「寝不足になる」「何となく体がだるい」「むしゃくしゃしたりイライラする」「ささいなことで人に当たる」「食欲がない」の各項目である。

表2 - 5 心身の健康の状態 × 成績・心を打ち明けて話せる友人

(%)

	成績別			心を打ち明けて話せる友人の数				
	上	中	下	1人 いる	2~ 3人 いる	4~ 5人 いる	6人 以上 いる	いない
寝不足になる	74.0	75.1	80.9	79.3	73.9	77.9	80.8	77.3
何となく体がだるい	56.7	66.4	72.3	68.2	65.4	67.8	70.3	67.3
何かをする気力がなくブラブラ過ごす	40.9	56.7	67.0	57.0	56.8	55.6	51.1	<u>67.2</u>
責任のあることにかかわりたくないと思う	44.9	47.8	53.7	56.4	46.4	41.4	45.2	62.3
むしゃくしゃしたりイライラする	37.8	46.0	51.8	48.5	46.0	44.5	49.1	48.8
今の自分は本当の自分ではないと思う	42.5	38.7	47.1	<u>44.4</u>	38.5	34.0	32.3	<u>56.8</u>
ささいなことで人に当たる	26.0	30.6	38.1	34.3	30.3	32.7	32.4	33.2
食欲がない	21.4	17.5	26.3	19.5	16.8	19.3	23.7	24.6

「よく」+「かなり」ある割合
— は本文で触れたもの

2 健康について「していること」「できること」——

(1) 健康について「していること」「できること」

一口に高校生の心身の健康と言っても、学年や成績、部活動、友人関係といったフォーマル、インフォーマルな学校的な要因や性差などによって生徒にも多様性がみられる。そこで以下では、これらを踏まえながら、高校生が自分の健康や身体について「何をしているのか」、また「何ができるのか」という点から、彼らの「生」の現実を掘り下げてみたい。

表2 - 6は、健康に関する4つの項目について、「いつもしている」「かなりしている」と答えたものを性別と学年別にみたものである。まず全体から言うと、「3食きちんと食事をとる」生徒は9割弱。しばしば「朝食ぬき」で登校する生徒の問題が指摘されることからすると、食事はしっかりとっているようである。しかし、先に「寝不足」の実態に触れたが、ここでもそれを裏づけるように「睡眠時間をきちんととる」ことを心がけているのは半分以下である。また、健康のための「適度の運動」や、「外食」や「買い食い」など食品への配慮も十分とは言えない。

学年別ではあまり差がみられないが、性別では特に女子の「運動」への配慮不足が目立つ（「適度の運動を欠かさない」男子55.2%：女子29.2%）。これには運動部系の部活動が男子に多いこともあるが、女子の「ダイエット」などへの関心の高さからすると、行動と意識がアンバランスであるようにも思われる（これについては次節でもう少し触れたい）。

この項目を除くと、学年別の数字と同様、性別でも男女の間に大きな差はみられない。「買い食い」そのものは高校生の楽しみの1つだろうが、そこに食品や外食に対する意識など、家庭や保健に対する女子への「ジェン

ダー（性役割）期待」の反映を読み取ることはできない。むしろ、わずかではあるが「外食や買い食いをさける」意識は、男子の方が高くなっている。

ところで、このような本人による健康への配慮は、高校生の健康や身体への「自律」能力の指標とみることもできる。「自分の身体と健康を正確に見つめ、それに適確に対処すること」を自律の1つの目安とすれば、今の彼らに何ができるのだろうか。

表2 - 7は、「体や健康についてできること」の7つの項目に対して、「できる」「たぶんできる」と答えたものを取り出し、性別、学年別にみたものである。全体でみると、「風邪をひかないために予防する」86.4%、「傷で出血したときに自分でとめる」79.1%というように、日常的に繰り返されてきた予防や処置について、約8割以上ができるとしている。これ自体は評価しておきたい。

これに対して、同じ処置でも「ねんざ」や「高熱」に対処できるとする生徒は約5割である。また、予防の基礎としての「食事や睡眠などの生活リズムを整える」ことができるとしたのは66.8%である。すでにみたように睡眠や食事に関して自分で律して健康を維持するということが、全員が当たり前のようにできることではなくなっているのが現状だろう。

これらの項目の中で、もう一つ「自律」という点から着目しておきたいのが「体の大きさで病気になるかを判断する」50.8%である。というのも、学校の保健室では来室した生徒が自分の症状を適確に説明できず、「具合の悪さの特定」と「処置のあり方」をめぐって養護教諭と延々と時間を費やしていることが頻繁に見受けられるからである。数字でみると少なくとも2人に1人はそういう状態のようである。

性別でみると、部活動の影響か「軽いねんざを自分でなおす」が男子56.7%：女子42.1%と男子にできるものが目立つ他、多少男女で特徴がみられる。また学年別では、「風邪

で高熱が出たときに自分でなおす」「体のだるさで病気なのかを判断する」「軽いねんざを自分でなおす」が上級生、特に3年生で高くなっている。

表2 - 6 健康のためにしていること × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
3食きちんと食事をとる	87.9	86.0	89.9	89.3	87.8	85.7
睡眠時間をきちんととる	47.4	46.1	48.9	46.4	48.0	48.5
適度の運動を欠かさない	42.6	55.2	29.2	41.4	44.1	42.7
外食や買い食いをさける	33.0	35.0	31.0	33.1	32.8	33.0

「いつも」+「かなり」している割合

表2 - 7 体や健康についてできること × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
風邪をひかないために予防する	86.4	83.1	90.0	86.9	85.6	86.7
傷で出血したときに自分でとめる	79.1	81.3	77.0	77.8	79.1	81.5
やけどの手当てをする	68.8	65.9	71.7	70.3	67.4	67.4
食事や睡眠などの生活リズムを整える	66.8	67.1	66.1	66.3	67.2	67.2
風邪で高熱が出たときに自分でなおす	52.8	56.0	49.4	48.8	52.8	59.4
体のだるさで病気なのかを判断する	50.8	51.6	49.9	50.2	48.9	54.1
軽いねんざを自分でなおす	49.7	56.7	42.1	44.6	52.0	55.5

「できる」+「たぶんできる」割合

(2)「できること」「していること」の背景

繰り返すが、自分の健康や身体に対して、全員が同じような行動をとれるわけではないことは前述したとおりである。では、その差を生み出す背景（要因）はどこにあるのだろうか。ここでは「成績」「小学校時代の生活（遊び）体験」「家庭環境」の3点からそれをとらえてみた。

表2 - 8は「体や健康についてできること」の各項目について肯定した上のデータに「成績」をクロスしたもので、表中の○印はそれぞれの最大値である。これで見ると明らかのように、「できる」と答える割合が高いのはほとんどの項目で成績上位者である。特に、

「風邪をひかないために予防する」(上89.0%：中87.8%：下79.3%)、「食事や睡眠などの生活リズムを整える」(上69.3%：中68.8%：下57.5%)という予防的な行動では下位者が割合を大きく下げ、彼らの中に日常生活での配慮を欠く層の存在をみることができる。

ただし、これだけで成績の上位者、中位者の身体や健康についての自律度が高いとはいき切れない側面がある。上でみた「体のだるさで病気になるかを判断する」という項目では、上53.5%：中51.1%：下47.0%というように、それぞれの約半数が自分自身の健康や身体をつかまえてかかっているからである。この点からすると、「成績」は健康や身体について

表2 - 8 体や健康についてできること × 成績

	(%)		
	上	中	下
風邪をひかないために予防する	89.0	87.8	79.3
傷で出血したときに自分でとめる	81.9	79.4	76.5
やけどの手当てをする	70.1	69.2	66.6
食事や睡眠などの生活リズムを整える	69.3	68.8	57.5
風邪で高熱が出たときに自分でなおす	52.0	52.3	55.5
体のだるさで病気になるかを判断する	53.5	51.1	47.0
軽いねんざを自分でなおす	53.5	49.8	47.8

「できる」+「たぶんできる」割合
○は最大値

の日頃の活動と結びつくが、それが直接「自律」のための判断力を培うとは言い難いようである。

では、前章でみたような「生活（遊び）体験」はどうだろうか。表2 - 9は以上にみた項目と「小学校の頃のすごし方」を関連させたものである。データは、それぞれの小学校の頃のすごし方の回答のうち「とてもそう」と答えたものを取り上げ、健康と身体に関する各項目とクロスさせた。表中の下線部は、各項目での最小値を示している。

これで見ると、小学校時代に「家でテレビゲームをとてました」という生徒は、自分の健康と身体についてできることが、わずかな差ではあるが限られる。「体のだるさで病気

なのかを判断する」についても、「近くの空き地や原っぱで遊んだ」53.2%、「犬や猫などのペットの世話をした」53.0%、「たくさんの友だちと遊んだ」53.5%に比べて、「家でテレビゲームをした」は49.8%である。

ただし、これは「テレビゲーム」をよくしていた者たち全体が特異であったことを示すものではない。なぜなら「テレビゲーム」をよくしていても、彼らのうちの多くは他と同様に身体や生命への配慮・行動をしているからである。ここでは、それ以外の極少数までは視野に入れることはできないが、前章のように「テレビゲームをする」子は、同時によく「近くの空き地や原っぱで遊んだ」子でもあったことを確認しておきたい。

表2 - 9 体や健康についてできること（できる+たぶんでできる）× 小学校の頃のすごし方（とてもそう）

(%)

	近くの空き地や原っぱで遊んだ	家でテレビゲームをした	犬や猫などのペットの世話をした	たくさんの友だちと遊んだ
風邪をひかないために予防する	87.3	<u>84.6</u>	87.3	88.0
傷で出血したときに自分でとめる	83.2	<u>80.5</u>	85.9	81.9
やけどの手当てをする	72.6	<u>66.7</u>	73.1	71.1
食事や睡眠などの生活リズムを整える	69.8	<u>66.7</u>	67.0	70.6
風邪で高熱が出たときに自分でなおす	56.3	54.3	<u>53.8</u>	54.4
体のだるさで病気なのかを判断する	53.2	<u>49.8</u>	53.0	53.5
軽いねんざを自分でなおす	54.8	<u>49.6</u>	53.0	53.9

—は最小値

このように、今回のデータでは子ども時代の「生活（遊び）体験」の内容が現在の健康や身体に関連するかは十分にとらえきれなかった面があると思う。今後さらに掘り下げて検討したい。では、もう一つ同じ生徒の生活体験でも、小学校の頃の家庭の様子は、彼らの健康や身体についての見方にかかわるのだろうか。

表2 - 10は小学校の頃の家庭の雰囲気「いつもあたたかかった」のか「あまり、またはぜんぜんそうでなかった」のかを取り上げ、各項目との関連をみた。両者であまり数字の変わらないものもあるが、「風邪をひかないために予防する」が「いつもそう」88.9%：「あまり+ぜんぜんそうでない」81.0%、「食事や睡眠などの生活リズムを整える」が

「いつもそう」72.0%：「あまり+ぜんぜんそうでない」55.9%のように、健康、身体への予防的な行動は「家庭のあたたかさ」という子ども時代の家庭の雰囲気と関連がみられる。

一方、けがや病気などへの対処は両者あまり差がみられず、かえて「風邪で高熱が出たときに自分でなおす」については逆転がみられる。また、「体のだるさで病気なのかを判断する」では、家庭があたたかい雰囲気が「いつもそう」52.7%：「あまり+ぜんぜんそうでない」46.6%という結果であった。「家庭のあたたかさ」は、先に触れた健康や身体に対する判断力（自律力）を培う1つの要因として考えられるのではないだろうか。

表2 - 10 体や健康についてできること × 小学校の頃の家の様子

	あたたかい雰囲気だった	
	いつもそう	あまり+ぜんぜん そうでない
風邪をひかないために予防する	88.9	81.0
傷で出血したときに自分でとめる	79.9	79.2
やけどの手当をする	71.2	67.0
食事や睡眠などの生活リズムを整える	72.0	55.9
風邪で高熱が出たときに自分でなおす	52.9	59.3
体のだるさで病気なのかを判断する	52.7	46.6
軽いねんざを自分でなおす	49.7	49.3

「できる」+「たぶんできる」割合

3 高校生の「身体感覚」と「生」

(1) 学校の中での「身体」

以上のようにみると、健康というものは誰もが同じように享受しているわけではないことに気づかされる。それは単に丈夫かどうかというような「フィジカルな条件」の違いとしてだけでなく、学校、友人関係、家庭などの具体的な人々とのかかわりを通して自分独自の身体が培われてゆくからだろう。

ただし、今みてきたように、その身体や健康を彼らが自分で律することができるとは限らない。友人に誘われて「部活動をサボりはじめた」というささいなきっかけが、自分の健康と身体を予想外の方向に変える可能性もあるからだ。ここまでのところでは、このように自分の健康や身体が変わり得るものであることと、変え得る要因が社会にあることを

とらえてきた。

そこで以下では、この章の最後として、今の高校生が「身体」をどのように受け止めているのかをみることで、彼らの「生」の確かさや危うさといった「生の現実感」の断面を整理しておきたい。

表2 - 11は、高校生が「自分の体にしてみたいこと」について聞いたものである。そのうち「とても+かなりしたい」という者、また「現在している」と答えた者を取り出してみた。全体でみると、「ダイエットをする」44.9%、「フィットネスクラブやスポーツジムに行く」39.1%、「髪を染める」36.6%の支持が高く、「日焼けサロンやエステに行く」が17.5%で、その他は1桁台である。「顔の整形」「やせる薬」「耳以外のピアス」は、高校生にとってまだ「非日常」なのだろうか。

表2 - 11 自分の体にしてみたいこと × 性

(%)

	とても+かなりしたい			現在している		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子
ダイエットをする	44.9	20.4	70.3	4.7	2.7	6.8
フィットネスクラブやスポーツジムに行く	39.1	35.4	43.0	1.4	1.4	1.3
髪を染める	36.6	30.0	43.5	6.6	4.4	9.1
日焼けサロンやエステに行く	17.5	7.2	28.1	0.8	0.5	1.0
安全であれば顔の整形をする	8.7	5.9	11.6	0.9	0.6	1.3
やせるために薬を飲む	7.6	2.4	13.1	1.1	0.6	1.6
耳以外のところにピアスをつける	5.2	4.4	6.2	1.1	0.7	1.6

これを男女別にみると、性差によって大きく回答の割合が異なっている。特に「ダイエットをする」男子20.4%：女子70.3%、「日焼けサロンやエステに行く」男子7.2%：女子28.1%に代表されるように、女子には「見られる身体」あるいは「見せる身体」に対して身体を「操作」することに積極的な姿勢がみられる。これは、数が少ないとはいえ、「顔の整形」や「やせる薬」の利用についても同様で、美容や化粧という文化的な基礎があるにしろ、身体に対する「日常」と「非日常」のハードルの高さが男女で異なるようである。

ただし、数は少ないとはいえ、男子の中にも自分の身体を操作しようという生徒が確実に存在している。「日常」と「非日常」のハードルといったが、男子の中でのハードルも変化していることに留意したい。

ところで、これを現在しているものの数字と比較してみると、希望と現実の間には大き

なギャップがあることがわかる。今回の調査対象校が地方都市中心だったこともあるかもしれないが、学校の規則や経済的な問題など彼らの意識の中のハードルとは別の次元のハードルが存在するようである。

それに多少関連するのが表2-12である。これは今みた「自分の体にしてみたいこと」の各項目を成績と関連させたものである。これで見ると、比較的大きな差がみられるのが「髪を染める」の上33.1%：中35.7%：下42.0%や「日焼けサロンやエステに行く」で、特に成績下位者に多くみられる。

これまでも繰り返しみてきたことではあるが、学校にいる限り生徒たちは自分の身体を自由に扱うことができないというのが実状だろう。様々なファッションと共に生徒たちの身体表現は変化し続けるだろうが、「学校」というフィルターが生徒たちの身体感覚にどのような「バイアス」になっているのか、常に検証する必要はあるだろう。

表2-12 自分の体にしてみたいこと × 成績

(%)

	上	中	下
ダイエットをする	32.3	45.8	44.9
フィットネスクラブやスポーツジムに行く	41.8	39.7	37.4
髪を染める	33.1	35.7	42.0
日焼けサロンやエステに行く	14.3	16.4	24.6
安全であれば顔の整形をする	9.4	8.0	11.0
やせるために薬を飲む	4.8	6.8	11.1
耳以外のところにピアスをつける	7.0	4.2	8.3

「とても」+「かなり」したい割合

(2) 清潔感と「生」の現実

さて、はじめにも触れたように、身体は快や痛みといった具体的な感覚と結びつくことで自分独自の「生」を実感する原点であると共に、自己と他者の違いを明らかにし、その上で互いをむすびつける1つの「メディア」でもある。その意味で「身体」は「アイデンティティ」という問題に深くかかわっている。この点については次章でより詳しく取り上げるが、表2 - 13は身体を仲立ちとしたかわりについて、「清潔感」という点からとらえてみた。

具体的には「電車などで人の触れたつり革をにぎる」というようなごくありふれた光景について、「気になること」(とても+かなり)を聞いている。項目は他人に関することと自分に関することに大別されるが、全体でみると「他人に関すること」では「汗をかいてい

る人が近くにくる」42.5%、「他人が座ったトイレの便座に腰かける」41.8%が目立つ。これに対して「自分に関すること」では、「自分の汗がにおう」68.1%、「自分が使用した後にトイレがにおう」64.3%を気になるとする者が多い。

性別でみると、これらの項目が「気になる」のは女子に多くみられる。例えば、「汗をかいている人が近くにくる」のが気になるのは男子32.2%：女子53.3%、「自分の汗がにおう」では男子55.4%：女子81.4%というようにである。これらは、「エチケット」としてお互いの配慮を前提とした距離感が求められてきたが、「抗菌グッズ」や「無臭スプレー」などの流行に象徴されるように、「人間であれば当たり前にあること」と「エチケット」の間という微妙な距離感がとらえにくくなったとも指摘される。

表2 - 13 気になること × 性

	(%)		
	全体	男子	女子
電車などで人の触れたつり革をにぎる	12.3	7.1	17.5
電車などで体が触れ合う	20.9	11.9	30.3
他人が座ったトイレの便座に腰かける	41.8	26.1	58.2
汗をかいている人が近くにくる	42.5	32.2	53.3
人前で鼻をかむ	51.3	44.0	58.9
自分の汗がにおう	68.1	55.4	81.4
自分が使用した後にトイレがにおう	64.3	50.6	78.5

「とても」+「かなり」気になる割合

これが、「身体性」を媒介にした自己と他者の関係を大きく変化している兆候かどうかは即断できないが、表2 - 14は、これが生活体験の変化と結びつくものであることを示唆している。小学校時代、「近くの空き地や原っぱ」で「よく遊んだ者」と「あまり+ぜんぜん遊ばなかった者」、同じように「たくさんの友だち」と「よく遊んだ者」と「あまり+ぜんぜん遊ばなかった者」についてみると、「よく遊んだ者」に相手の「身体性」に対する許容度が多少であるが高い。

例えば、「汗をかいている人が近くにくる」

で気になる割合は、「近くの空き地や原っぱ」で「よく遊んだ者」が40.7%であるのに対し、「あまり+ぜんぜん遊ばなかった者」では47.8%である。

高校生に限らず、社会全体の中で「生」が希薄になったといわれる。その中で私たちはもう一度自分たちの「身体」を考える時期にきているように思われる。生徒の生活体験や学校生活など、身体を通して見える現実を忠実にたどることで、これからの高校生の「生」と私たちおとなの「生」を重ね合わせて考える緒に就くことができるのではないだろうか。

表2 - 14 気になること × 小学校の頃のすごし方

(%)

	近くの空き地や原っぱで遊んだ		たくさんの友だちと遊んだ	
	とてもそう	あまり+ぜんぜん そうでない	とてもそう	あまり+ぜんぜん そうでない
電車などで人の触れたつり革をにぎる	12.4	15.5	11.0	17.4
電車などで体が触れ合う	20.2	23.0	20.3	22.6
他人が座ったトイレの便座に腰かける	41.3	45.9	40.6	42.1
汗をかいている人が近くにくる	40.7	47.8	41.0	44.2
人前で鼻をかむ	50.6	55.2	50.6	52.1
自分の汗がにおう	67.4	68.9	67.2	68.6
自分が使用した後にトイレがにおう	62.6	68.8	63.4	63.3

「とても」+「かなり」気になる割合

第3章 IIIII

高校生と超現実世界

1 はじめに

この章では高校生と死後の世界、祈願、占い、神秘体験などの超現実世界との関係を扱っていく。ところで1960年代くらいまでの高校生をとりまく世界においては「進歩」や「科学」に価値がおかれ、超現実世界といってもSFなどの未来社会を描くものが大部分であり、本章で扱うような項目は、迷信としてやがては消えてゆくものと考えられていたのではないかと思う。

そのような傾向が変化したのはいつ頃からであろうか？ 社会学者の⁽¹⁾見田宗介は、1970年代の大規模な社会調査をもとに、若者の間でお守り、占い、あの世、奇跡などを信じる者が増加したことに着目し、そのような傾向を「近代合理性への飽和」「意識構造の脱近代化」と表現している。またその後、⁽²⁾若者の間での呪術色、個人の行、善悪二元論、ライブの魅力、宗教食などの特徴を持つ新・新宗教への志向が問題となり、さらに80年代にはある⁽³⁾オカルト系の雑誌の文通欄に、「せい、

ゆうや、せいや、ゆう、夕顔、という5人の名前に何かを感じた方は連絡を」などの、自分が「転生者」や「戦士」でありその仲間を求める、という投書が増加し（6分の5は女性であり、中・高生、特に高校2年生が多い）編集部が文通欄を編集しなおした、などの事件が話題になった。

このように1973年の石油ショック後の社会の情報化・管理化を背景として、若者の間での超現実世界への関心が話題になっていったが、それは1990年代になって95年のオウム真理教事件に示されるように行きづまりをみせているようにもみられるし、また⁽⁴⁾「あの世」を信じる者は若者に多いなどの傾向が継続してもいる。

したがって本章では、このような高校生と超現実世界との関係の実態を調査し、その高校生に対する意味などについて分析していくことにしたい。

2 死や超現実世界に関する考え方

(1) 死に関する考え方

まず高校生の死に関する考え方をみると、それは表3 - 1のようになる。表に示されるように「人の死について考えることがある」者は「とてもそう思う」と「ややそう思う」を足して77.1%に達しており、かなり多くの高校生が死に関して考えていることがわかる。もっとも、死について考えている高校生が多いとはいうものの、「生きていること自体すばらしいことだ」と思っている者が73.7%に達しており、逆に「人はもともと孤独で一人ぼっちである」と思う者は37.9%で、この結果をみる限り、必ずしも高校生が生に対して悲観的にみているわけではないこともわかる。

次に死後の世界等に関する考え方をみると、「人間は死んだ後も、心は残っている」が48.3%、「人の寿命は運命によって決めら

れている」が47.1%、「お盆になると、死んだ人が戻ってくる」が37.3%、「死んでから、極楽か地獄のどちらかへ行く」が36.1%、「自分は前世の生まれ変わりだ」が29.0%となっている。このように人の死に関する考え方において、現在の科学では実証不可能な問題についても、約3～4割台の高校生に信じている者が存在する。

次にこれを性別にみると、それは表3 - 2のようになる。表に示されるように、「人の死について考えることがある」者は女子に多いが、「生きていること自体すばらしいことだ」と思う者も女子に多くなっている。また「人はもともと孤独で一人ぼっちである」と思う者は男子に多い。つまり、死について考える者は女子に多いが、生が必ずしもすばらしくなく、孤独だと思っている者は男子に多いという結果である。

表3 - 1 死に関する考え方

	(%)			
	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
人の死について考えることがある	33.5	43.6	18.0	4.9
生きていること自体すばらしいことだ	44.7	29.0	19.4	6.9
人はもともと孤独で一人ぼっちである	18.1	19.8	31.5	30.6
人の寿命は運命によって決められている	20.6	26.5	30.3	22.6
自分は前世の生まれ変わりだ	11.7	17.3	34.3	36.7
死んでから、極楽か地獄のどちらかへ行く	12.7	23.4	32.5	31.4
人間は死んだ後も、心は残っている	20.6	27.7	30.0	21.7
お盆になると、死んだ人が戻ってくる	12.7	24.6	33.8	28.9

また、死後の世界などに関する考え方をみると、基本的に女子に「人間は死んだ後も、心は残っている」「お盆になると、死んだ人が戻ってくる」「死んでから、極楽か地獄のどちらかへ行く」「自分は前世の生まれ変わりだ」と考えている者が多かった。なお「人の寿命は運命によって決められている」は、男子に「とてもそう思う」が多いが、「ぜんぜんそう思わない」も男子に多く、男子が両極分化する傾向がみられた。

これを学年別にみると、表3 - 3のように

なる。表に示されるように「生きていること自体すばらしいことだ」と思っている者は学年と共に減少し、逆に「人はもともと孤独で一人ぼっちである」と思っている者は学年と共に増加し、全体として生に対して悲観的に考える傾向がみられた。また、死後の世界などに関する考え方をみると、「人の寿命は運命によって決められている」は学年と共に増加するが、「自分は前世の生まれ変わりだ」は減少する、という傾向がみられた。

表3 - 2 死に関する考え方 × 性

(%)

		とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
人の死について考えることがある	男子	35.2	39.2	19.3	6.3
	女子	31.7	48.2	16.8	3.3
生きていること自体すばらしいことだ	男子	43.2	27.4	20.0	9.4
	女子	45.9	31.0	18.8	4.3
人はもともと孤独で一人ぼっちである	男子	21.0	19.9	27.8	31.3
	女子	15.1	19.5	35.5	29.9
人の寿命は運命によって決められている	男子	22.7	21.3	28.4	27.6
	女子	18.4	32.0	32.2	17.4
自分は前世の生まれ変わりだ	男子	11.3	14.8	31.1	42.8
	女子	12.0	19.9	37.4	30.7
死んでから、極楽か地獄のどちらかへ行く	男子	12.7	18.3	29.8	39.2
	女子	12.7	28.7	35.4	23.2
人間は死んだ後も、心は残っている	男子	17.8	22.9	30.1	29.2
	女子	23.6	32.9	29.8	13.7
お盆になると、死んだ人が戻ってくる	男子	8.3	17.4	33.3	41.0
	女子	17.2	32.2	34.4	16.2

表3 - 3 死に関する考え方 × 学年

(%)

		とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
人の死について考えることがある	1年	34.9	41.4	18.2	5.5
	2年	29.7	46.5	18.5	5.3
	3年	35.3	44.4	17.0	3.3
生きていること自体すばらしいことだ	1年	47.9	28.2	16.4	7.5
	2年	41.9	31.2	21.0	5.9
	3年	42.5	27.8	22.7	7.0
人はもともと孤独で一人ぼっちである	1年	14.1	17.3	31.5	37.1
	2年	18.7	19.1	35.0	27.2
	3年	24.4	24.7	27.4	23.5
人の寿命は運命によって決められている	1年	19.9	24.9	29.1	26.1
	2年	17.2	30.2	32.5	20.1
	3年	25.6	24.9	30.2	19.3
自分は前世の生まれ変わりだ	1年	12.4	19.4	31.0	37.2
	2年	11.6	16.3	36.1	36.0
	3年	10.5	14.8	37.8	36.9
死んでから、極楽か地獄のどちらかへ行く	1年	13.7	23.2	30.0	33.1
	2年	11.8	24.1	33.4	30.7
	3年	11.9	22.8	36.0	29.3
人間は死んだ後も、心は残っている	1年	21.5	27.0	29.4	22.1
	2年	20.5	28.1	31.3	20.1
	3年	19.3	28.6	28.9	23.2
お盆になると、死んだ人が戻ってくる	1年	13.7	25.6	32.4	28.3
	2年	12.6	22.6	37.2	27.6
	3年	11.1	25.1	32.4	31.4

(2) 超現実世界に関する考え方

高校生の超現実世界に関する考え方をみると、それは表3 - 4のようになる。表に示されるように、自分の運などに関する現世利益的な項目については、「とてもそう思う」と「かなりそう思う」を足して、「試験や身の安全の祈願をしたい」が68.5%、「血液型や星座などの占いが気になる」が54.4%、「おみくじが好きである」が52.7%、「試験や試合などではゲンをかつぐ」が41.4%、「たたりで悪いことが起こると思う」が39.5%、「お守りをいつでも身につけていたい」が25.9%である。このように、試験や安全などの現在や将来の自分の現世利益に関連する項目については、初詣なども含むであろう「祈願」が最も多くて約7割に達し、次いで「おみくじ」が5割に達する。

また、必ずしも現世利益に結びつかない項目については、「宇宙人やUFOはいると思う」が56.2%、「神秘体験や心霊現象などはあると思う」が52.5%、「前世や来世（あの

世）はあると思う」が45.1%、「超能力はあると思う」が37.3%である。このように超現実世界に関しては、「宇宙人やUFO」「神秘体験や心霊現象」を信じる者が5割台、「前世や来世」を信じる者が4割台、「超能力」を信じる者が3割台となっており、決して少なくはない割合の高校生が、自分の現実や将来の「利益」には直接関係のない超現実世界に関心を持っていることがうかがえる。

これを性別にみると、表3 - 5のようになる。表に示されるように、現世利益的な項目もそうでない項目も、「ゲンをかつぐ」「宇宙人やUFO」「超能力」を除いて、基本的に女子の方に信じている者が多い、という傾向がみられた。つまり女子の方が、超現実的世界に対して想像する傾向が強いようである。なお「ゲンをかつぐ」については男女差がなく、「超能力」「宇宙人やUFO」に対しては男子の方が信じている者が多いが、これは同じ超現実世界といってもSF的な要素があるために男子の気を引いたものと考えられる。

表3 - 4 超現実世界に関する考え方

	(%)			
	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
試験や身の安全の祈願をしたい	37.5	31.0	23.5	8.0
お守りをいつでも身につけていたい	9.9	16.0	49.2	24.9
おみくじが好きである	24.2	28.5	30.3	17.0
血液型や星座などの占いが気になる	24.6	29.8	28.3	17.3
たたりで悪いことがおこると思う	13.7	25.8	37.2	23.3
試験や試合などではゲンをかつぐ	16.0	25.4	37.4	21.2
宇宙人やUFOはいると思う	30.5	25.7	27.1	16.7
超能力はあると思う	15.9	21.4	37.2	25.5
神秘体験や心霊現象などはあると思う	23.8	28.7	29.1	18.4
前世や来世（あの世）はあると思う	20.2	24.9	33.1	21.8

これを学年別にみたのが表3 - 6である。
表に示されるように基本的に「ゲンをかつぐ」
者は学年と共に増加するが、「おみくじ」を

信じる者は学年と共に減少する傾向がみられる。

表3 - 5 超現実世界に関する考え方 × 性

(%)

		とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
試験や身の安全の祈願をしたい	男子	34.8 ^	28.4 ^	25.1	11.7 v
	女子	40.0	33.8	22.0	4.2
お守りをいつでも身につけていたい	男子	9.4	14.1	47.6	28.9 v
	女子	10.3	18.1	51.0	20.6
おみくじが好きである	男子	20.7 ^	26.1 ^	31.5	21.7 v
	女子	28.0	31.1	28.8	12.1
血液型や星座などの占いが気になる	男子	17.5 ^	23.5 ^	34.0 v	25.0 v
	女子	32.0	36.4	22.4	9.2
たたりで悪いことがおこると思う	男子	12.7	22.3 ^	36.2	28.8 v
	女子	14.7	29.5	38.3	17.5
試験や試合などではゲンをかつぐ	男子	17.5	24.2	33.5 ^	24.8 v
	女子	14.4	26.7	41.6	17.3
宇宙人やUFOはいると思う	男子	34.8 v	24.6	22.8 ^	17.8
	女子	26.2	26.7	31.6	15.5
超能力はあると思う	男子	18.3	21.2	32.5	28.0
	女子	13.5	21.7	41.9	22.9
神秘体験や心霊現象などはあると思う	男子	22.9	25.7 ^	28.7	22.7 v
	女子	24.8	31.9	29.6	13.7
前世や来世（あの世）はあると思う	男子	18.5	20.5 ^	31.7	29.3 v
	女子	22.1	29.4	34.6	13.9

表3 - 6 超現実世界に関する考え方 × 学年

(%)

		とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
試験や身の安全の祈願 をしたい	1年	40.2	30.3	21.8	7.7
	2年	33.8	31.5	27.7	7.0
	3年	37.1	31.5	21.7	9.7
お守りをいつでも身につけて いたい	1年	11.9	17.1	48.7	22.3
	2年	7.8	14.0	51.1	27.1
	3年	8.8	16.3	48.1	26.8
おみくじが好きである	1年	27.2	26.7	28.8	17.3
	2年	21.5	31.5	30.5	16.5
	3年	22.3	28.2	32.5	17.0
血液型や星座などの 占いが気になる	1年	25.7	26.6	28.2	19.5
	2年	24.7	32.1	27.9	15.3
	3年	22.5	32.7	28.8	16.0
たたりで悪いことが おこると思う	1年	14.1	25.5	36.9	23.5
	2年	12.3	25.9	38.3	23.5
	3年	14.6	26.2	36.5	22.7
試験や試合などでは ゲンをかつぐ	1年	17.4	22.6	37.0	23.0
	2年	14.9	26.5	39.1	19.5
	3年	15.0	29.0	36.0	20.0
宇宙人やUFOはいる と思う	1年	30.4	26.0	27.1	16.5
	2年	30.9	25.0	27.3	16.8
	3年	30.7	25.8	26.8	16.7
超能力はあると思う	1年	15.3	21.9	34.2	28.6
	2年	15.2	21.5	40.0	23.3
	3年	17.9	20.4	38.9	22.8
神秘体験や心霊現象な どはあると思う	1年	24.0	27.7	28.5	19.8
	2年	23.6	30.2	30.7	15.5
	3年	23.6	28.6	28.5	19.3
前世や来世（あの世） はあると思う	1年	20.8	24.7	31.3	23.2
	2年	19.9	25.0	35.4	19.7
	3年	19.7	25.0	33.5	21.8

3 高校生にとっての超現実世界の意味

(1) 成績や友人関係との関係

さて、超現実世界に関心のある生徒は、成績や友人関係において疎外されているため居場所がなく、このような世界に入っていくという説がある。この点について成績との関係を見ると、成績が悪い者ほど超現実世界を信じるという傾向は、「たたり」((成績が)下(中の下+下)42.8%・中38.7% > 上(上+中の上)35.1%)、「神秘体験や心霊現象」((成績が)下53.8%・中54.8% > 上47.8%)のみにみられた。

また友人関係についてみると、友人が少ないほど超現実世界を信じるという傾向は、「宇宙人やUFO」((友人数)少ない59.1% > 1人いる+2~3人いる55.1%・4~5人いる+6人以上いる56.5%)のみにみられた。

このように成績や友人関係における問題と超現実世界との関係は非常に限定されたものであった。これは先にみたように超現実世界を信じることもはや少数派ではないくらいに「流行化」しているため、それと成績や友人関係における疎外とがあまり結びつかなくなっていったのではないかと考えられる。

また小学生の頃の自然環境、友だちとの遊び、家庭の雰囲気と超現実世界との関係をも、それらに問題があるために超現実世界を信じるという関係はみられず、この点から

も高校生の超現実世界の問題が少数派ではなく「流行化」していることがうかがえた。

(2) アイデンティティ形成との関連

それでは最後に、高校生と超現実世界との関係について、より高校生の内面的な問題からみていくことにしよう。まずアイデンティティ形成をはかる質問として「何かをする気力がなくブラブラ過ごす」「今の自分は本当の自分ではないと思う」「責任のあることにかかわりたくないと思う」をとりあげ、「よくある」=1点、「かなりある」=2点、「あまりない」=3点、「ほとんどない」=4点と得点化し、その合計と超現実世界との関係を見た。

すると表3-7に示されるように、3つの質問すべてについて「よくある」と答えた3点の生徒が、超現実世界に関するすべての項目について「とてもそう思う」と答えた割合が最も高かった。

このように成績や友人の数などの外面的な変数との関係はあまりみられなかったが、アイデンティティ形成という内面的な変数において、アイデンティティが最も未発達な者が、現世利益的なものにせよそうでないものにせよ、超現実世界を最も信じるという傾向が顕著にみられた。

表3 - 7 アイデンティティ形成と超現実世界

(%)

	アイデンティティ得点									
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
試験や身の安全の祈願をしたい	(47.1)	> 29.4	< 41.6	> 36.8	36.7	35.9	36.2	39.9	36.0	< 40.0
お守りをいつでも身につけていたい	(21.2)	> 9.2	11.8	10.5	8.1	9.7	7.3	10.1	7.0	< 11.1
おみくじが好きである	(35.3)	> 26.6	23.5	25.7	25.2	22.1	22.9	22.2	22.0	< 26.7
血液型や星座などの占いが気になる	(38.8)	> 22.9	< 27.1	25.1	24.9	24.5	> 20.1	< 24.2	22.0	20.0
たたりで悪いことがおこると思う	(32.9)	> 24.8	21.7	> 13.6	11.8	9.5	8.8	< 14.1	> 9.0	11.1
試験や試合などではゲンをかつぐ	(37.6)	> 22.9	19.0	17.6	14.8	12.6	12.4	15.2	> 9.0	< 13.3
宇宙人やUFOはいると思う	(51.8)	> 36.7	37.1	> 33.1	> 26.6	24.5	28.2	< 34.3	> 28.0	> 22.2
超能力はあると思う	(37.6)	> 22.0	19.9	> 15.2	15.7	> 11.7	12.1	< 17.7	> 11.0	< 17.8
神秘体験や心霊現象などはあると思う	(47.1)	> 22.0	< 27.6	26.9	25.2	> 19.9	20.6	19.2	17.0	< 22.2
前世や来世(あの世)はあると思う	(35.3)	> 25.7	22.2	22.6	19.3	18.9	15.0	< 22.7	> 15.0	15.6

「とてもそう思う」割合
○は最大値

4 まとめ

以上のように本章では、石油ショック以降問題とされた高校生と超現実世界との関係を検討した。そして現在においても、死後の世界、祈願、占い、神秘体験などの超現実世界を信じている者が少なからずいることをみた。また、それが成績や友人関係とはあまり関係がないが、アイデンティティの未発達と関係していることを示した。

このように近代化の飽和した社会において少数派とはいえない高校生が超現実世界を信

じている傾向があり、本章ではその特徴をいくつかの点でみたが、総体として超現実世界が高校生にどのような機能を果たしているかについては、さらなる検討が必要であろう。

- 注(1)見田宗介『現代日本の精神構造』弘文堂、1975年
(2)西島建男『新宗教の神々』講談社現代新書、1988年
(3)浅羽通明「オカルト雑誌を恐怖に震わせた謎の投稿少女たち！」「別冊宝島92うわさの本」宝島社、1989年
(4)橋本唱児、高橋幸市「日本人の意識の20年(1)」「放送研究と調査」日本放送出版協会、1994年5月

第4章 ||||

死生の感覚

戦争という大勢の人が死ぬ悲惨な状況からは遠く離れて、平和で豊かな世界に生き、幸せに満ちた生活を送っている現代の高校生たちは、死というものをどのように意識してい

るのであろうか。大量死こそ遠い存在であれ、日々さまざまな事故死やいまわしい殺人事件が報道される中、彼らが死に対してどういう感覚を持っているのか調べてみた。

1 死の意識

人間はこの世に生を受けた以上、やがて一度は死を迎える存在である。だが、死は子どもにとっては想像をはるかに越えたもので、「死」が意識に上るのは、何かのきっかけ、例えば、飼っている犬や猫の死、祖父母など肉親の死、あるいは親しくしていた近所の人死などに遭遇したときであろう。このような周囲や他人の死から、やがて自分の死を意識するようになる。そこで自分の死を意識するようになってから今まで、自発的に何回くらい死を願望したことがあるのか、自ら死のうと考えたのはいつ頃で、どんな理由で死にたいと思ったかをたずねてみた。

(1) 死にたいと思った頻度

表4-1は「死にたいと思った回数」をたずねた結果である。表に示したように、「死

にたいと思ったことがない」が61.7%で、残りの38.3%は何回か「死にたいと思ったことがある」と答えている。その中で「1回」は12.7%、「5回以上」が11.3%とそれぞれ1割を超えている。性別では男子の「死にたいと思ったことがない」が69.8%、女子が53.1%で、死を意識した経験は圧倒的に男子の方が少ない。男子は概して外向的、活動的で、思考を外に発散させることができる傾向なのに対し、女子は内面に沈潜し、心の中に深く悩みをためてしまう性格の者が多いと言われている。

また学年が進むにつれて「死にたいと思ったことがない」割合は減少している。これはわずかな期間とはいえ、人生期間がのびていくにつれて死を思うチャンスが増え、また死を願ういろいろな要因が増えていく結果であ

ろう。

成績面からみると、「中」以上の生徒の65%前後が死を意識しないのに対して、「中の下」「下」では死を意識したことのない者はそれぞれ58.6%、55.3%しかいない。特に、「5回以上」も死を願望した生徒が、成績の下位の者に多くみられ18.5%に達する。成績不良であること、あるいはあったことは、目前の入試など将来に対して子どもたちを悲観させたり、また親からの叱責によって子どもたちは切迫感を持っていたのであろう。

図4-1は部活動との関係をみたものであ

る。「運動部で積極的に活動している」者は「死にたいと思ったことがある」が34.0%と、その割合が最も少ない。それに対して文化部活動者は積極的あるいは消極的共に43%を超え、平均を約5%上回っている。文化系の者の方が小説、ドラマ等の影響を受けることが多く、自分と対峙することがよくあるので高い数値になって表れていると推察できる。

表4-2で「生活の満足度」でクロスしてみると、「とても満足」「かなり満足」している者は70%以上が「死にたいと思ったことがない」に対し、「ぜんぜん満足していない」

表4-1 死にたいと思った頻度 × 性・学年・成績

	(%)										
	全体	性 別		学 年 別			成 績 別				
		男子	女子	1年	2年	3年	上	中の上	中	中の下	下
1回	12.7	10.8 < 14.8		12.3	12.7	13.5	9.4	15.8	10.6	14.8	10.8
2回	7.9	5.3	10.7	7.7	8.0	8.0	5.5	6.6	8.0	8.2	8.3
3回	5.1	3.2	7.0	5.1	5.7	4.4	2.4	4.1	5.4	5.6	5.2
4回	1.3	0.7	1.9	1.1	1.2	1.6	1.6	1.4	0.8	1.0	1.9
5回以上	11.3	10.2 < 12.5		10.2	10.3	14.3	13.4	8.7	8.7	11.8	18.5
ない	61.7	69.8 > 53.1		63.6	62.1	58.2	67.7	63.4	66.5	58.6	55.3

者は39.6%という結果である。

その他では、「祖父母と同居していない」61.0%、「墓参りをあまりしない」56.4%、「墓参りをぜんぜんしない」53.7%が「死にたいと思ったことがない」と答えているのが目を引く。生徒を取り巻く家庭の環境要因が多分に子どもたちの生死観に影響を与えていることがわかる。

いじめによる中学生の自殺がセンセーショナルに取り上げられてから相当日も経つが、悲劇は相変わらずその後も各地でたびたび起きている。「人にとてもしじわるされた」

者で「死にたいと思ったことがない」者はわずかに33.3%で、「5回以上死にたいと思った」割合の31.9%に近い数字である。いじめがいかに彼らの精神に深刻な打撃を与えているかを如実に示している。

また、家族や親族の死を「2回以上」経験した者の方が、「死にたいと思ったことがない」の割合は低く(59.3%)、ぜんぜん遭遇していない者は64.9%が「死にたいと思ったことがない」と経験の差が大きい。

図4-1 死にたいと思ったこと × 部活動

	ある	ない	(%)
全体	38.3	61.7	
入っていない	38.6	61.4	
運動部 積極的	34.0	66.0	
運動部 消極的	38.8	61.2	
文化部 積極的	43.5	56.5	
文化部 消極的	43.4	56.6	

表4 - 2 死にたいと思った頻度 × 属性

(%)

		1回	2回	3回	4回	5回以上	ない
生活満足度	とても満足している	10.8	6.6	2.4	1.2	7.8	71.2
	かなり満足している	11.9	7.1	2.2	0.4	5.5	72.9
	どちらともいえない	13.0	7.3	4.5	0.9	8.7	65.6
	あまり満足していない	13.7	9.5	7.8	1.8	11.9	55.3
	ぜんぜん満足していない	11.6	7.4	8.1	3.1	30.2	39.6
祖父母との同居	両方と同居	11.8	7.8	3.9	1.2	10.8	64.5
	祖父と同居	9.3	6.2	6.2	—	12.4	65.9
	祖母と同居	13.7	8.7	4.2	1.0	10.2	62.2
	同居していない	12.8	7.6	5.6	1.5	11.5	61.0
墓参り	いつもする	12.4	8.0	4.7	1.3	11.0	62.6
	たまにする	11.9	6.5	5.4	1.0	10.4	64.8
	あまりしない	18.3	7.0	5.6	0.7	12.0	56.4
	ぜんぜんしない	10.0	10.0	7.5	2.5	16.3	53.7
人にいじわるされた	とてもある	10.9	8.0	10.1	5.8	31.9	33.3
	かなりある	21.5	11.7	8.6	1.6	14.1	42.5
	あまりない	11.3	7.8	4.7	0.8	9.6	65.8
	ぜんぜんない	11.7	6.1	3.2	1.0	8.4	69.6
家族・親族の死	2回以上	12.5	8.9	4.5	1.3	13.5	59.3
	1回	11.4	8.2	5.3	1.2	9.8	64.1
	ない	14.3	5.3	5.3	1.1	9.1	64.9

図4 - 2 - ①では、死に対する強い恐怖感を抱いたのは「死にたいと思ったことがある」者が30%台なのに対して、「死にたいと思ったことがない」者は2倍以上の60%以上いる。死を「ぜんぜんこわがっていない」者は半数以上の54.7%が「死にたいと思った」者である。また②に示す「自殺はとてもよくない」

と考えている者は、「死にたいと思った」者の29.1%が否定していないのに対し、「死にたいと思ったことがない」者は70.9%と断然否定的である。そして当然自殺肯定派に「死にたいと思ったことがある」者が多い。自殺志願の有無が自殺肯定観に非常に影響を与えていることがわかる。

図4 - 2 - 死の恐怖感 × 死にたいと思ったこと

		死にたいと思ったこと		(%)
		ある	ない	
死 ぬ こ と は こ わ い	とてもそう思う	32.4	67.6	
	ややそう思う	38.8	61.2	
	あまり そう 思 わ な い	48.8	51.2	
	ぜんぜん そう 思 わ な い	54.7	45.3	

図4 - 2 - 自殺はよくない × 死にたいと思ったこと

		死にたいと思ったこと		(%)
		ある	ない	
自 殺 は よ く な い	とてもそう思う	29.1	70.9	
	ややそう思う	44.1	55.9	
	あまり そう 思 わ な い	61.0	39.0	
	ぜんぜん そう 思 わ な い	73.0	27.0	

(2) 死にたいと思った時期

「死にたいと思った時期」を聞いた結果が表4-3である。6つの時期の中から1つだけ選んでもらったので最も早い時期ということになり、したがって、「複数回そう思った」のは「いつ」と「いつ」であるかは残念ながら不明である。「小学生の時」にすでに死を思ったことのある生徒が約4分の1強の27.0%で、調査件数全体の約10%が「小学生の時」すでに「死にたいと思った」ということになる。ただし「小学生の時」は1年から6年までの複数学年なので数値が多くなっているかもしれない。

性別では「中2の時」までは女子の方が多く、精神的成熟の早さがうかがえる。もう一つのピークが「中3の時」にきている。思春期症候の1つで心身共に苦悩する時期であるし、また最近のいじめや高校受験の問題が彼らを「死まで考える」ほどに追いつめていると推察できる。2年生の回答中、22.6%が

「高1の時」、3年生の回答中、30%以上が高校入学以後にあらわれているのは「悩み多き年頃」を物語っているとみてよからう。表4-4で成績からみると、上位者は「小学生の時」は周囲から一目置かれ、いじめなどには無縁だったのか、死にたいと思うような状況に置かれることは16.7%と下位者より少なく、「中2の時」「中3の時」と高校入試を控えたときに志望校の選定などで悩んで27.7%と上昇していると思われる。「中の上」以下では「小学生の時」を除いて、「中3の時」だけにピークが来ており、土壇場のせっぱ詰まった状況になって彼らは悩んだのであろう。

表4-5は、「死にたいと思った時期」と「いじわるされた経験」をクロスさせたものである。いじわるされたことが「とてもある」者は「小学生の時」死にたいと思った割合が40%を超えている。「中3の時」には21%を超えているが、この時期についてはいじわるされたことが「ぜんぜんない」者も28.1%いる。

表4-3 死にたいと思った時期 × 性・学年

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
小学生の時	27.0	24.7	< 28.7	28.5	24.7	27.5
中1の時	12.3	11.6	< 12.7	14.4	12.8	8.5
中2の時	15.3	12.5	< 17.2	15.6	16.9	13.3
中3の時	25.6	25.9	> 25.4	37.0	17.7	16.9
高1の時	12.2	15.0	> 10.2	4.5	22.6	12.9
高2の時	7.6	10.3	> 5.8	—	5.3	20.9

表4 - 4 死にたいと思った時期 × 成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
小学生の時	16.7	30.8	30.5	22.8	25.5
中1の時	5.6	9.0	11.3	14.2	14.6
中2の時	27.7	17.3	15.0	13.7	13.4
中3の時	27.7	24.4	24.3	28.4	24.8
高1の時	16.7	12.1	12.6	12.3	12.1
高2の時	5.6	6.4	6.3	8.6	9.6

○は最大値

表4 - 5 死にたいと思った時期 × いじめられた経験

(%)

		死にたいと思った時期					
		小学生の時	中1の時	中2の時	中3の時	高1の時	高2の時
人に いじ わる され た	とてもある	40.4	16.9	7.9	21.3	9.0	4.5
	かなりある	35.4	11.8	18.1	21.5	9.7	3.5
	あまりない	23.8	12.1	17.5	26.6	12.1	7.9
	ぜんぜんない	21.3	11.0	12.9	28.1	15.7	11.0
全 体		27.0	12.3	15.3	25.6	12.2	7.6

(3) 死にたかった理由

では、彼らが死にたいと思った理由はどの辺にあるのだろうか。彼らの言葉で自由に書いてもらったもので、統計的には分析しなかったが、おおよそ次のように大別されると思う。

1 つには「学校に関するもの」、そして「家庭に関するもの」、さらに「社会一般に関するもの」「自分自身の内面に関するもの」である。

まず「学校に関するもの」では、教師の暴力、友人によるいじめ、無視、悪口などがあり、小学生の時にいじめを受けて、死のうかと思った生徒が意外に多いのに驚いた。そして、それらのいじめ現象が教師によってあまり把握されていないかったり、時には助長されているのは過去に報道された多くの例にもみられる。

その他では学校に対する漠然とした不満から登校拒否症状を呈しているものや、思春期の青少年特有の失恋の痛手のために、死への欲求に駆られているものもあった。しかし多くの場合、しばらく冷却期間をおいてみると、何とばかりしいことを考えたのかと目覚めているようだ。

「家庭に関するもの」では、なんといっても母親の叱責が多い。きょうだい間での不公平感、兄姉によるいじめ、また両親の不和、離婚なども原因になっている。

「社会に対するもの」では、生きている価値がないと彼らが思っている社会に対する不満や、正義感が強いがために虚無的になっているというケースである。

そして「自己の内面を見つめる」目には、まだ見ぬ死の美化、漠然とした死への憧憬などが見受けられる。

数多くの記入者の文章の中には複数の理由をあげているものもあり、死にたい気持ちがそう単純でないことを示している。

具体的に生徒の書いてくれた文をいくつか引用してみよう。

a. 友人関係

- ・友だちとけんかした
- ・友だちにいじめられた
- ・友だちにシカト（無視）された
- ・今考えるとばからしいけど、フラれたときは死にたかった
- ・異性関係でこれ以上生きていても自分がつらいだけだと思ったことがあった
- ・自分のせいで友だちを傷つけてしまったり、親友と呼べる友だちがいないこと
- ・友だちに裏切られ、大切なものを奪われた
- ・友だちに汚いもの扱いされ続けた
- ・学校での友だちとの関係が悪くなって、とてもつらかった

b. 学習関係

- ・受験勉強で、勉強、勉強といって追まわられて苦しかったので、自殺ではなく、自然に階段から落ちて死ねたらと思った
- ・宿題をやりたくなかったから
- ・受験から逃げたい
- ・大勢の前で自分の作文を読む前のプレッシャー
- ・勉強のことで何か言われ面倒臭いと思ったとき

c. 学校関係

- ・学校の先生がひいきばかりして、暴力をふるい、授業をしないので学校へ行くのがいやになった（小学生の時）
- ・部活動の顧問の先生とうまくいかなかった
- ・友だちに強烈な仲間外れにされ1人になり先生に相談してもあまり聞いてくれなかった

d. 家庭関係

- ・受験の時、志望校を親に勝手に決められたから
- ・親が離婚しそうになった
- ・母親がいやになった

- ・親に怒られて、私が死んだら困るくせにと思った
- e . 社会一般
- ・偏差値で学校を決めたり、学歴で就職先が決まるというのは違うと思うため
 - ・世の中に不満があるから
- f . 自分自身
- ・人生に疲れた
 - ・自分が死んで何人の人が悲しむか知りたかった
 - ・私って生きている価値ないのかなと思って
- ・自分の弱みを人に見せるのがこわかったから
 - ・自分の才能のなさに失望した
 - ・自分のいる場所がないと思った
 - ・人生にあきた、完全にやる気をなくした
 - ・生きている意味がわからない
- g . 死への憧憬
- ・死んだら一体どんなふうになって、どこへ行くのだろうという興味
 - ・死んだ方が楽そうだと思った
 - ・死後の世界を見たかった
 - ・もっと自由になりたいから
 - ・天国へ行きたいから

2 死に対する感覚

(1) 死の恐怖感

高校生にとって死はまだはるかかなたのもので、実感することはできない。身近に死んだ人が存在しても、まだ自分が死ぬということは考えられないし、考えたくもないのは当然であろう。死んだらどうなるのかということも考えない。したがって、死というものはまだ漠然とした、こわいものとしかとらえていない。

図4 - 3が示しているように、全体では半数近い47.5%が死に対して強い恐怖感を抱いており、77.3%が何らかの恐怖感を持っている。性別では「とてもそう思う」は女子の方が50.7%と高く、男子は44.3%と低い。「とても+ややそう思う」では女子81.4%対男子73.4%とその差はひらき、女子の方が死に対する怯えが強いことがわかる。また、女子ではぜんぜん恐怖感のない者も5.0%と少ないのに対して、男子では10.7%と倍以上の差がある。

学年別では3年の10.8%が「ぜんぜんこわくない」と、恐怖感を抱かない生徒の多さが目立っている。

(2) 自殺観

この世に生を受けたのはまさしく自己の意志ではないのだが、自分の命を大切にしなければならぬと考えているのが圧倒的に多数で、図4 - 4でみるように、「自殺はよくない」と「とてもそう思う」に「ややそう思う」を加えると80%を超える。これは生命は尊重しなければならないことをしっかりとらえている証ととれよう。しかし、自殺を肯定的にみる者も17.8%もいる。男子では19.9%、女子が15.8%が肯定的であり、学年が進むにつれてその割合が増加し、1年15.6%、2年18.6%、3年20.7%となっている。「死に対する恐怖」ではあまり学年差がでていなかったが、より具体的な「自殺」に対しては、人生経験の差がそう考えさせているのかもしれない。

図4-3 死ぬことは怖い 女子の方が怖い

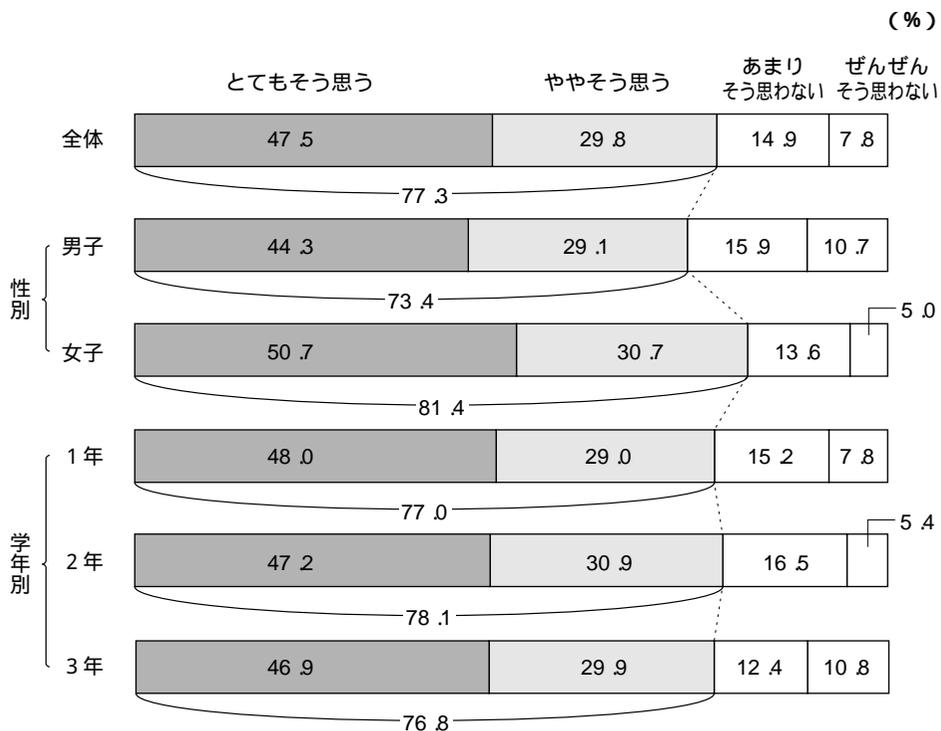
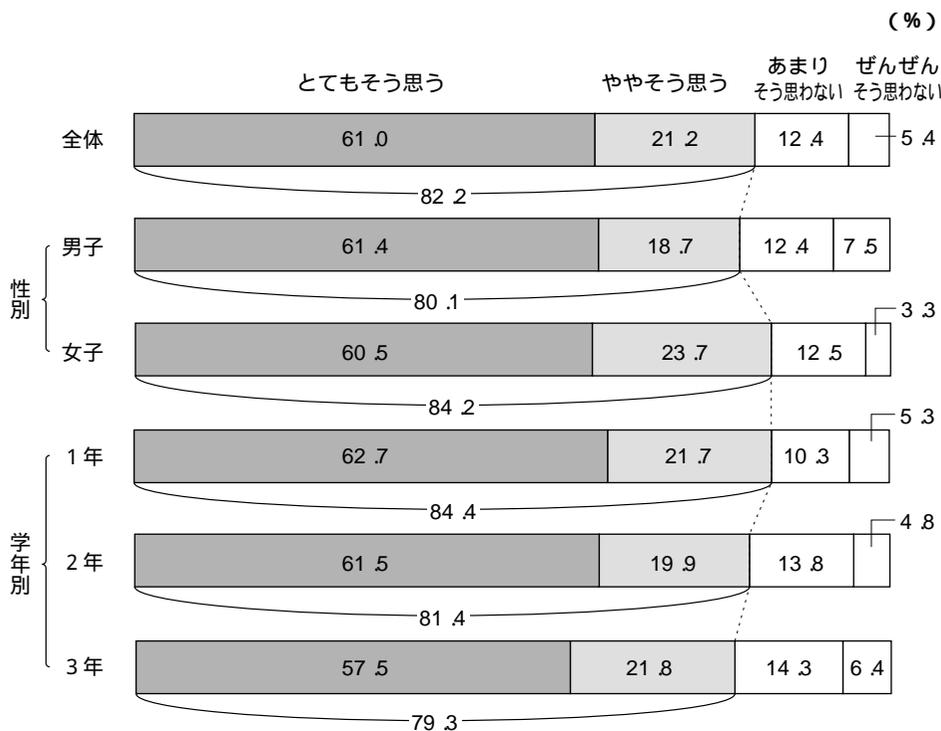


図4-4 どんな理由があっても、自殺はよくない 男子、3年に否定者がやや多い

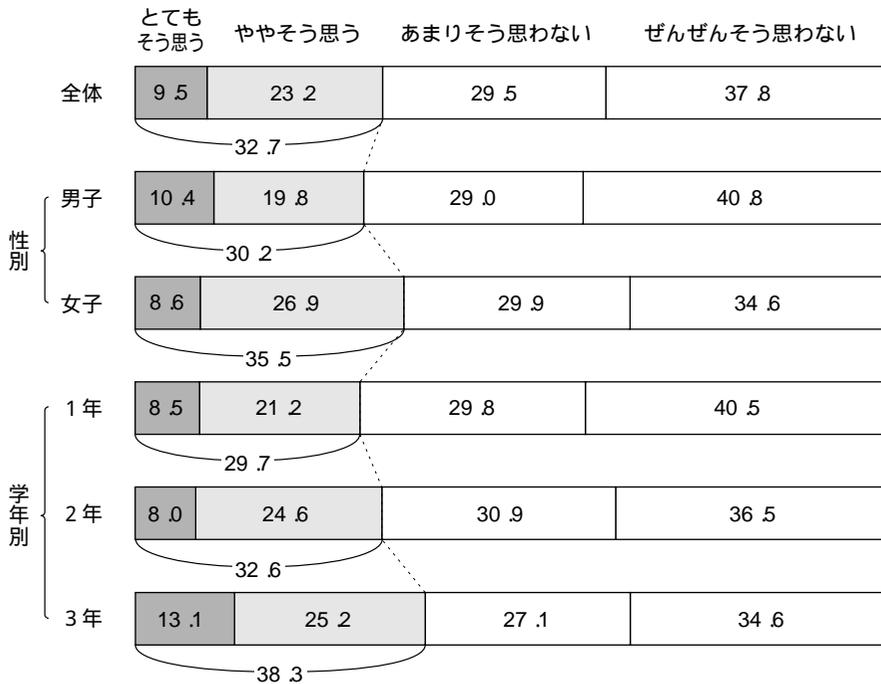


(3) 死が逃避手段という意識

死によって苦痛から逃避したいという意識を持つこともあろうが、死んで逃れられると考えている者は9.5%と少ない。だが「もしかして逃れられるかもしれない」という淡い期待感を持っている者が23.2%いる。死に

よってもつらいことは解決できないこととはっきり認識している者が多く、男子が69.8%、女子が64.5%である。学年別では、「死が逃避手段にならない」と思う者は学年が進むにしたがい減少し、1年70.3%、2年67.4%、3年61.7%となっている(図4-5)

図4-5 死によってつらいことから逃れられる 1年に肯定者少ない (%)



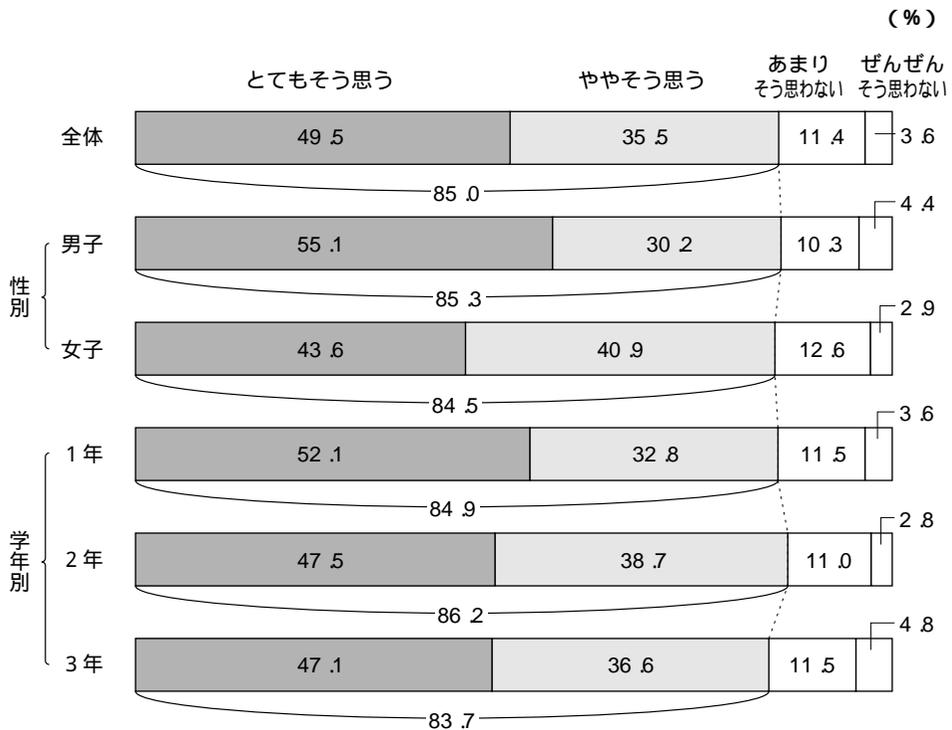
(4) 科学によって死を超えられるか

最近の医学の進歩は目を見張らせるものがあり、人々の科学に対する期待感は非常に高く、相当な難病も治癒できると期待されている。したがって、死と隣り合わせているような難病といえども、新薬の製造や治療技術の

進歩によって生命を維持するところまでいくのであろう。折しも「脳死」による「臓器移植」の問題などが登場して、関心をかき立てられている。

図4 - 6ではそのような期待感が、85.0%と大きくでている。男女差、学年差は大きくない。

図4 - 6 現在の難病もいつか科学で解明できる



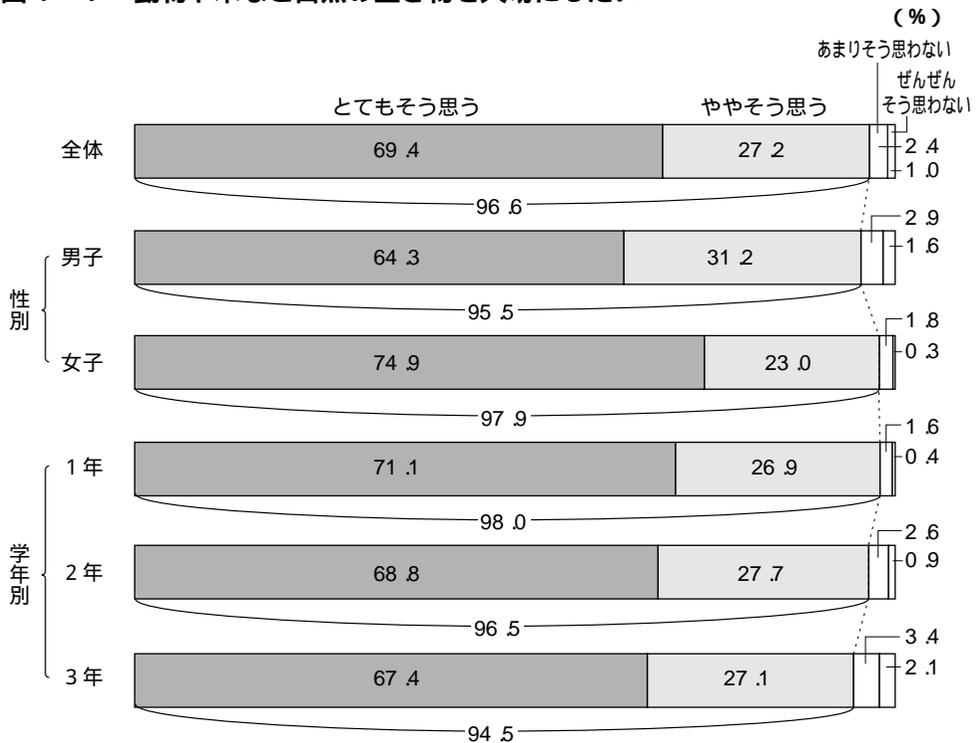
(5) 生の尊厳、生への畏敬

「自然の生き物を大切にしたい」という生命への畏敬は多くの者が自然に持っている気持ちで、「動物の生」と「植物の生」にはやや異なる面があるとはいえ、自然界の秩序を維持すべきだという生命観があるとみてよいだろう。

図4 - 7が示しているように、96.6%が

多かれ少なかれ生命尊重感を抱いている。男子と女子では、男子が95.5%で女子97.9%に比べ低い。学年別では学年が上がるにつれ徐々に下がっていく傾向で、1年98.0%、2年96.5%、3年94.5%となっている。わずかではあるが、年齢(学年)が進むにしたがって生命を尊ばない傾向にあるのはいささか気になることである。

図4 - 7 動物や木など自然の生き物を大切にしたい



3 高校生の宗教観

高校生の年代で宗教に対してどのように考えているかを死との関連で調べてみた。家庭が熱心な宗教信奉者であるとか、ミッションスクールなどで宗教にふれる機会の多寡が彼らの宗教心と結びつくことが考えられるので、今回の調査は公立高校に限った。家庭の宗教とか、その熱心さの度合いについては聞

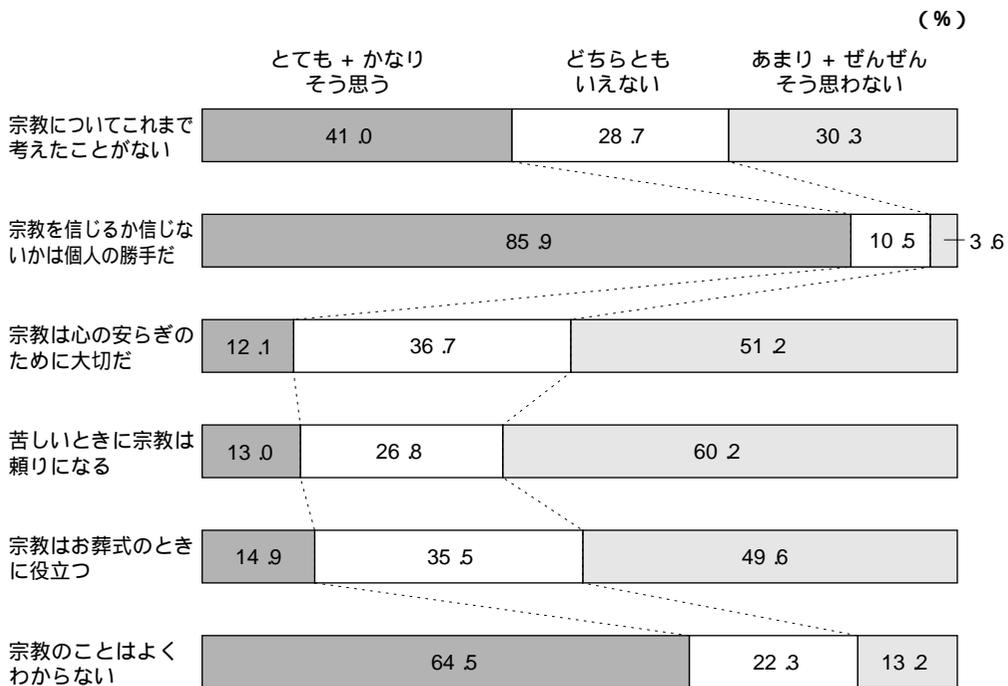
いていない。

図4 - 8は、宗教に関して6項目の設問に対してのその賛否を図示したものである。

「宗教について考えたことがない」者は41.0%で、「考えたことがある」者30.3%を上回っている。

「宗教信仰の自由」は85.9%が肯定、「宗教

図4 - 8 高校生の宗教観



は心の安らぎに大切だ」と思っている者はわずかに12.1%、逆に「大切だと思わない」者は51.2%と半数を超えている。

「苦しいときに宗教は頼りになる」と考えている者は13.0%で、「頼りにならない」としている者は60.2%である。

「宗教はお葬式のときに役立つ」と思っている者は14.9%、半数近い49.6%が逆に「役立たない」と考えている。

最後に宗教のことをどう思っているのか聞いてみると、64.5%が「よくわからない」と答えている。

(1) 宗教への関心

「宗教について考えたことがある」者は3分の1弱の30.3%、それに対して「考えたことがない」者41.0%と無関心ぶりがうかがわれた。さらに表4-6の属性でみると、性差はあまりでていない。学年別では、「考えたことのある」者が学年進行で1年29.4%、2年29.0%、3年33.2%と増加傾向がみられる。いろいろな悩みが増えるにつれ、宗教への関心も比例して増加しているのだろうか。

表4-6 宗教についてこれまで考えたことがない × 性・学年

(%)

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	28.4	28.4	28.1	28.4	28.5	28.3
かなりそう思う	12.6	11.4	13.7	13.2	13.7	10.3
どちらともいえない	28.7	27.2	30.5	29.0	28.8	28.2
あまりそう思わない	14.4	14.5	14.5	14.0	13.9	15.8
ぜんぜんそう思わない	15.9	18.5	13.2	15.4	15.1	17.4

○は最大値

(2) 信教の自由

基本的人権の1つでもある信教の自由は、表4-7が示しているように、85.9%が認めている。しかしわずかではあるが数%の者が信教の自由を認めようとしていない。このことは、宗教への無関心が信教の自由を犯すことを放置しているとも考えられ、たとえ個人の信仰が自由であっても、他人の信仰を尊

重する世界を築いていく必要がある。

(3) 宗教の安心感

宗教信仰者には、何か言い知れぬ力に支えられて、心がいつも安らかであるという意識を持つ人が多い。しかしその正体が何であるのかは、不信仰の者にとってははっきりしない。表4-8では、男子の方が「とてもそう思う」と「ぜんぜんそう思わない」の両端に

表4-7 宗教を信じるか信じないかは個人の勝手だ × 性・学年

(%)

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	63.1	66.6	59.3	64.3	61.5	62.9
かなりそう思う	22.8	19.3	26.4	21.3	25.6	22.0
どちらともいえない	10.5	9.5	11.6	10.2	10.4	11.2
あまりそう思わない	0.9	0.9	0.8	0.9	0.9	0.7
ぜんぜんそう思わない	2.7	3.7	1.9	3.3	1.6	3.2

多く、それぞれ6.1%、34.4%で、女子の3.9%、28.8%と比べて多いことがわかる。学年差はあまりない。それにもかかわらず、人は何か安心させてくれるものをいつも求めているようだ。「鯛の頭も信心から」という言葉に象徴されるように、何か安心できるようなものを求めるのが人間の性ではないだろうか。そう考えると、宗教に安らぎを求めない現代の高校生たちは、何に安らぎを求めてい

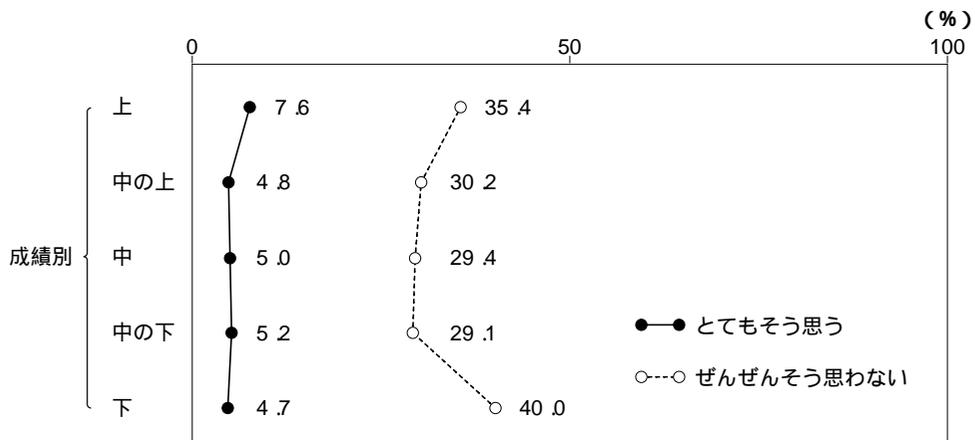
くのだろうか。

図4-9では成績との関係をもてみた。成績上位者の方が、「宗教は心の安らぎのためにとっても大切だ」と「とてもそう思う」割合が7.6%で下位者より高い。上位者は「ぜんぜんそう思わない」も多く35.4%で、下位者の40.0%に次いでいる。

表4-8 宗教は心の安らぎのために大切だ × 性・学年

	(%)					
	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	5.0	6.1	> 3.9	5.0	5.8	4.2
かなりそう思う	7.1	8.0	6.1	6.5	7.6	7.4
どちらともいえない	36.7	34.6	39.0	36.7	37.1	36.4
あまりそう思わない	19.5	16.9	22.2	19.1	19.7	19.9
ぜんぜんそう思わない	31.7	34.4	> 28.8	32.7	29.8	32.1

図4-9 宗教は心の安らぎのために大切だ × 成績



(4) 宗教への依存度

人それぞれで、例えば、物質的に豊かになって何不自由なく暮らすことによって安心を得るといふ生き方もある。一方で、心の平安抜きでは真の安心が得られないと考える人もいよう。そんな心の安らぎを宗教に求める人もいるであろう。そこで今の高校生たちは宗教にどのくらい心の安らぎを求めているだろうか。

表4-9をみると、「苦しいときに宗教は頼りになる」で「ぜんぜんそう思わない」が

38.5%、「あまりそう思わない」が21.7%と宗教への依存心の少ないことがわかる。特に男子の「ぜんぜんそう思わない」41.9%が女子の35.1%を6.8%も上回り、男子の気の強さがみえる。学年別では、1年が「とても+かなりそう思う」11.2%に対し、2年14.1%、3年14.8%とやや肯定者が増えている。

図4-10で現在の生活の満足度と比べてみた。現在の生活に「とても満足している」者に宗教が「頼りになる」と答えた者が最も少なく、「とても+かなり頼りになる」を合わせて10.3%、「あまり+ぜんぜん頼りになら

表4-9 苦しいときに宗教は頼りになる × 性・学年

(%)

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	3.6	3.7	3.5	4.1	3.7	2.6
かなりそう思う	9.4	9.6	9.2	7.1	10.4	12.2
どちらともいえない	26.8	26.0	27.6	28.4	26.8	24.0
あまりそう思わない	21.7	18.8	24.6	21.1	21.8	22.4
ぜんぜんそう思わない	38.5	41.9	35.1	39.3	37.3	38.8

図4-10 苦しいときに宗教は頼りになる × 生活満足度

苦しいときに宗教は頼りになる

(%)

生活満足度	とても+かなり そう思う		どちらとも いえない	あまり+ぜんぜん そう思わない
	とても満足している	10.3	27.9	61.8
かなり満足している	14.0	30.2	55.8	
どちらともいえない	12.9	27.9	59.2	
あまり満足していない	13.1	24.3	62.6	
ぜんぜん満足していない	12.4	21.3	66.3	

ない」者は61.8%に及んでいる。幸せいっぱい的生活をしているので宗教などへ依存する必要がない、また依存したくないということであろうか。

一方、現在の生活に「不満組」をみると、「頼りになる」とするのは、やはり12.4%とさほど多くはない。逆に「頼りにならない」とする者は66.3%である。

(5) 葬儀と宗教

一般に葬儀は神社、寺、教会など宗教による儀式が圧倒的に多い。もちろん無宗教の葬

儀もあるが、その数は非常に少ないと思われる。しかし彼らは、それほど宗教を葬儀をするのに必要だとは考えていないようだ。

表4-10でみると、「役立つ」と考える者は、「とても」に「かなり」を足してもわずかに14.9%、「役立たない」と考えている者は、「あまり+ぜんぜん」で49.6%に達する。「どちらともいえない」と判断が揺れている割合が35.5%と高く、将来の葬儀の無宗教化が考えられる。しかし、そんな層も結局は宗教的な葬儀を依頼していくのだろう。

表4-10 宗教はお葬式のとくに役立つ × 性・学年

(%)

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	4.9	6.9	2.8	4.6	4.9	5.3
かなりそう思う	10.0	10.2	9.7	8.4	11.3	11.4
どちらともいえない	35.5	33.3	37.8	35.2	36.8	34.4
あまりそう思わない	22.3	19.3	25.4	21.5	24.0	21.8
ぜんぜんそう思わない	27.3	30.3	24.3	30.3	23.0	27.1

(6) 宗教への依存度

戦後の社会ではさまざまな新興宗教が勃興し、また消滅していった。在来の宗教が熱心な布教をせず、大衆が豊かな物質生活を享受しているときには精神的な宗教などへは関心が薄く、死者の弔いの時くらいしかかわりを持たなかった。表4 - 11でみるように、全体の約3分の2にあたる64.5%が「宗教はよくわからない」と答えている。

性別では、女子の方が「とてもそう思う」が48.4%と、男子の44.3%をしのいでいる。

学年別では、1年47.8%、2年46.1%、3年44.4%と「とてもそう思う」が学年が上がるにつれて減少している。

公立学校では特定の宗教の教育は禁止されているが、一般的な宗教教育というものもなく、宗教心を学ばなくなった結果、盲目的に宗教へのめり込む若者がでているのかもしれない。また家庭でも、核家族になり狭い住宅事情で、神棚、仏壇といった宗教的なものが姿を消している傾向がそれに拍車をかけているのだろう。

表4 - 11 宗教のことはよくわからない × 性・学年

(%)

	全体	性 別		学 年 別		
		男子	女子	1年	2年	3年
とてもそう思う	46.4	44.3	48.4	47.8	46.1	44.4
かなりそう思う	18.1	18.0	18.1	18.1	18.1	18.1
どちらともいえない	22.3	23.5	21.3	20.2	25.1	22.7
あまりそう思わない	5.7	5.1	6.4	5.7	4.7	6.9
ぜんぜんそう思わない	7.5	9.1	5.8	8.2	6.0	7.9

4 まとめ

われわれの人生において避けて通れない死を、現代の高校生はさほど深刻なものとしては受けとめず、意外にさめた目でしか見えないことがこの調査であらわれている。しかし、死の受けとめ方は彼等のおかれていた環境や経験に大きく左右されている。また生徒の自殺の原因として大きな問題となった「いじめ」が広く深くはびこっていることも浮かび上がってきた。

一方、死は恐ろしいものとしてとらえられており、生は尊厳なものであり、畏敬されるべきものであると大多数の生徒たちは考えて

いる。

死と宗教のかかわり方は、歴史的にみても、民族的にも多種多様な様相を呈している。若いときにあまり宗教に関心を示さないからといって、必ずしも終生宗教と無関係でいるわけではないだろう。宗教心は、人生を深く経験し、自己の生の完成期に近づいたときに芽生えたり、何かのきっかけがその源になることもある。したがって現在の高校生たちがあがる程度無関心、無知だからといって悲観しなくてもよいのかもしれない。

まとめに

代えて

「生と死」の感覚を 成長の基礎に

バーチャル・リアリティの中での生と死

現代の生徒たちを特徴づけるものは電子メディア社会の中での成長であろう。生まれたとき、テレビがあったのはむろんのことだが、テレビゲームが発売されたのが昭和58年だから、生徒たちが幼稚園時代の出来事になる。

ファミコン史の中で初期の傑作として知られる「スーパーマリオ」は一種のシューティングゲームなので、ゲームでは一瞬のうちに何十人を殺すことになる。しかも、ゲームの死は血も出ないし、痛みもない。だから、ゲームをしている者は痛みを感じることなく、というより、痛快な気分ターゲットを殺していく。

マンガの中にも生や死が扱われることがある。アニメなどの場合、「アウー」とか「ドヒャー」とか、大げさなセリフがついてはいるが、オーバーな分だけ、カリカチュアされ実在感に欠ける。

この春にはやった「たまごっち」は文字通りに生と死を扱うゲームである。しかも、自分の手で卵に生を与えるので、情緒的な感情を伴う。特に生き物が育ちはじめると、愛着が生まれるし、不手際で生き物が死ぬと、悲しい気持ちができる。しかし、情緒的な感情を伴うといっても、所詮はフィクションの世界

で、実際の生や死とは異なる。とはいっても、「たまごっち」は見せかけの感情を伴い、本人が情緒を持ったと思える分だけ、「スーパーマリオ」より子どもたちに与える影響はより深刻な玩具なのかもしれない。

昨年から今年にかけて、多くの有名人が亡くなった。渥美清や勝新太郎の葬儀は芸能ニュースなどでこと細かく紹介され、闘病の歴史が関係者の声とともに放映される。したがって、現代の生徒は情報としての死は熟知している。

そうした反面、生徒たちはなまの生と死を知らない。高校生段階だと、父母はむろんのことだが、祖父母もまだそれほど老いていないので、身内の死を体験していない者が多い。別の機会に、高校生を対象に実施した調査の結果では、「身内の死に接していない」者が67%に達した。生についても、きょうだいの数が少ないので、年上の子でも、ごく幼い頃に妹や弟が生まれている。その結果、「生まれたての赤ちゃんを見たことがない」生徒が78%と8割に迫った。

人間は無理としても、せめて、ペットでも飼えばよい。しかし、マンションの中にはペットの飼育を禁じる場合が少なくない。一軒家でも敷地が狭かったり、建物の構造上、生き物の飼育に向かない場合がみられる。犬を

のんびり飼育でき、散歩させられる状況の方が少数派であろう。

そうなると、生徒たちはバーチャル・リアリティの中で無数の生や死を見聞きしている。社会問題に関心を寄せている生徒なら安楽死や癌治療の最新の情報を熟知しているかもしれない。しかし、なまの形で生や死はほとんど体験していない。

自然の体験をふやして

このように生と死がバーチャル・リアリティ化することの問題は何か。このところ、若い母親の間で育児不安が広がっている。知識としての育児はわかっていたつもりだが、子どもが生まれてみると、泣きやまない、笑わなくなった、食欲が落ちたなどのときにあわてる。そして、対応の仕方がわからないので精神的なバランスを崩す。時には、この子さえいなければ、もっと自由に暮らせると幼児虐待に走ったりすることもある。

実を言うと、今回のテーマはオウム真理教の事件を引きずっている。一流と言われる大学を出て、知的に優れているはずの若者がどうしてカルト教団に魅せられ、サリンをまいたのか。オウムに限らず、その他のカルト教団にも多くの若者が加わっている。しかも、不合理な教義ほど、魅力的に感じられるらしい。そうなると、正常な判断力が効かなくなり、カルトの度合いが強いほど、迷路にのめり込んでいく。研究会の席上、そうした話が交わされ、生徒たちの生死観を知りたいと思うようになった。

調査結果はすでに紹介した通りで、ほぼ予想した通りだった。それだけに、バーチャル・リアリティの中の生と死をいかに現実のものにするかが重要になる。しかも、生と死を教室の中で教えたのでは、ビデオやスライドを活用したところで、バーチャル・リアリ

ティの再現にすぎない。

この原稿は信州の山荘で執筆している。夏に山荘暮らしを始めてから10年以上になるが、以前と比べ、自然に対する理解が深まった気持ちがする。秋から葉が落ち、丸裸だった木に、春先新芽が出る。あっという間に、葉が生い茂り、夏向きの木となる。そして、花を咲かせ、実がなり、再び、落葉の季節に入る。そうした四季の移り変わりが正確に繰り返される。

木と同じように、季節が来ると、ほぼ同じ時期に同じ野鳥が姿を見せる。しかし、年によって、野鳥の数が多かったり少なかったりする。そうした鳥の姿を見ているだけで、自然への理解が深まる。

山荘の周りには電気がついていないから、夜になると真っ暗になる。月明かりを頼りに道を歩くのだが、満月が近づくくと月といっても明るい。しかし、新月の頃は真っ暗という感じになる。

そうした暮らしをしていると、あらためて自然を感じる。そして、自然の中では極めて小さい存在の自分に気がつく。それと同時に生や死が自然の中にとけ込み、ありのままに感じることができる。

そう考えてみると、生と死をことさら体験させようと思うのが間違いで、自然とともに暮らしをしていれば、生や死が自然の中に組み込まれてくる。もちろん、日常の中でそうした「自然とともに」を求めるのは無理であろうが、夏や冬の休みなどの折、生徒たちに自然に戻る体験を積ませることが重要であろう。

欧米では野外活動は教育の大きな柱として位置づいている。そして、それなりの人材養成や施設の充実が試みられている。しかし、日本では野外活動の取り組みが遅れている。「生と死」の問題と距離があるように、野外活動の充実がバーチャル・リアリティからの脱皮を可能にする近道のように思えた。

アンケートのお願い

このアンケートは、高校生の皆さんが生と死についてどのように考えているかをお聞きするために作成したものです。あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ をつけてください。

資料1 調査票見本

① あなたの学校、学年、性別についておたずねします。

- 1) 学校名..... () 高等学校
- 2) 学 年..... () 年
- 3) 性 別..... (1 . 男子 2 . 女子) をつけてください

まず、これまでのあなたのことについてお聞きします。

② あなたは、小学生のころをどのようにすごしましたか。

- | | | とても
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない | | |
|--------------------------|---|-----------|----------|--------------|---------------|------|---|
| 1. 恵まれた自然環境の中で暮らした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 2. 便利な町中で暮らした..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 3. 近くの空き地や原っぱで遊んだ | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 4. かくれんぼや鬼ごっこをした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 5. 家でテレビゲームをした..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 6. 野球やサッカーのチームに属した | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 7. 犬や猫などのペットの世話をした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 8. たくさんの友だちと遊んだ | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 9. 友だち同士でけんかをした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |

③ あなたは、小学校の時に次のようなことをしましたか。

- | | | よく
した | 少し
した | あまり
しなかった | ぜんぜん
しなかった | | |
|------------------------|---|----------|----------|--------------|---------------|------|---|
| 1. 子犬や子猫を抱き上げた..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 2. 夕焼け空に感動した..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 3. トンボやチョウをつかまえた | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 4. 川遊びをした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 5. 流れ星を見た | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 6. 草むらに寝ころんだ..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 7. 木のぼりをした | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 8. だるまこ遊びをした..... | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |

④ あなたが小学生のころの家の様子はどうか。

- | | いつも
そう | たまに
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|--------------------------|-----------|-----------|--------------|---------------|
| 1. 祖父や祖母と一緒に暮らしていた | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 日曜日などの休日は家族とすごした ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 夕食は家族そろって食べた | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. あたたかい雰囲気だった | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. お彼岸やお盆に先祖の墓参りに行った ... | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑤ 小学生のころ、次のようなテレビ番組を見ましたか。

- | | いつも
見た | かなり
見た | あまり
見なかった | ぜんぜん
見なかった |
|-----------------------------------|-----------|-----------|--------------|---------------|
| 1. 名作アニメ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 戦 ^{せんとう} 闘的なアニメ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. ドラマ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 刑事・探偵もの | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. クイズもの | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 時代劇 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. バラエティーもの | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 旅行もの | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 動物もの | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. ニュース・報道もの | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑥ 小学生のころ、次のようなテレビゲームをしましたか。

- | | いつも
やった | かなり
やった | あまり
やらなかった | ぜんぜん
やらなかった |
|---|------------|------------|---------------|----------------|
| 1. ドラクエ、ファイナルファンタジー
などのロールプレイングゲーム | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 恋愛や三国志などのシミュレーショ
ンゲーム | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. アドベンチャーゲーム | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. スーパーマリオなどのアクション
ゲーム | 1 | 2 | 3 | 4 |

資料1 調査票見本

5. ストリートファイターⅡなどの
対戦アクションゲーム..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
6. ツインビー、グラディウスなどの
シューティングゲーム..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

7 小・中学生のころのあなたは、どのようなタイプでしたか。

- | | とても
そう | かなり
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|--------------------------|-----------|-----------|--------------|---------------|
| 1. 外遊びが好きだった..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. マンガをよく読んだ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. マンガ以外の本をよく読んだ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. テレビをよく見た..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. たくさんの友だちと遊んだ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 人にいじわるされた..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 人にいじわるした..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 塾や習い事が多かった..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. クラブ活動に熱心だった..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 病気がちで体育の見学が多かった..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

8 あなたはこれまでに、次のようなことがありましたか。

- | | 何度も
あった | たまに
あった | あまり
なかった | ぜんぜん
なかった |
|------------------------|------------|------------|-------------|--------------|
| 1. 親からぶたれた..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 先生からきつく叱られた..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 友だちからぶたれた..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 友だちをぶった..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 病気やけがで通院した..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 体の弱った祖父母の世話をした..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 福祉関係のボランティアをした..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

9) あなたはこれまでに、次のようなことがありましたか。

	2回以上 あった	1回 あった	ぜんぜん なかった
1. 病気やけがで入院した.....	1	2	3
2. 家族のだれかが入院した.....	1	2	3
3. 家族以外の親しい人が入院した.....	1	2	3
4. 家族や親族が亡くなった.....	1	2	3
5. 家族以外の親しい人が亡くなった.....	1	2	3
6. お葬式で人の死に顔を見た.....	1	2	3
7. 飼っているペットが死んだ.....	1	2	3

次に、あなた自身の健康や体のことについてお聞きします。

10) あなたは、自分の体力に自信がありますか。

とても 自信がある	かなり 自信がある	あまり 自信がない	まったく 自信がない
1	2	3	4

11) 最近、次のようなことがありますか。

	よく ある	かなり ある	あまり ない	ほとんど ない
1. 寝不足になる.....	1	2	3	4
2. 食欲がない.....	1	2	3	4
3. 何となく体がだるい.....	1	2	3	4
4. 何かをする気力がなくブラブラすごす...	1	2	3	4
5. ささいなことで人に当たる.....	1	2	3	4
6. むしゃくしゃしたりイライラする.....	1	2	3	4
7. 今の自分は本当の自分ではないと思う...	1	2	3	4
8. 責任のあることにかかわりたくない と思う.....	1	2	3	4

資料1 調査票見本

⑫ あなたは自分の健康のために、次のようなことをしていますか。

- | | いつも
している | かなり
している | あまり
していない | ほとんど
していない |
|---------------------|-------------|-------------|--------------|---------------|
| 1. 3食きちんと食事をとる..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 睡眠時間をきちんととる..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 適度の運動を欠かさない..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 外食や買い食いをさける..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑬ あなたは、次のようなことをしたいと思いますか。

- | | とても
したい | かなり
したい | あまり
したくない | したく
ない | 現在
している |
|---------------------------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|
| 1. ダイエットをする..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 髪を染める..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 日焼けサロンやエステに行く..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. フィットネスクラブやスポーツ
ジムに行く..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 耳以外のところにピアスをつける... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. やせるために薬を飲む..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 安全であれば顔の整形をする..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

⑭ あなたは普段の生活で、次のことが気になりますか。

- | | とても
気になる | かなり
気になる | あまり
気にならない | ぜんぜん
気にならない |
|--------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. 電車などで人の触れたつり革をにぎる ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 電車などで体が触れ合う..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 他人が座ったトイレの便座に腰かける ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 汗をかいている人が近くにくる..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 人前で鼻をかむ..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 自分の汗がにおう..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 自分が使用した後にトイレがにおう..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

15 あなたは、次のことが自分でできると思いますか。

- | | できる | たぶん
できる | たぶん
できない | できない |
|--------------------------|-----|------------|-------------|------|
| 1. やけどの手当てをする..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 風邪をひかないために予防する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 体のだるさで病気なのかを判断する ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 食事や睡眠などの生活リズムを整える ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 風邪で高熱が出たときに自分でなおす ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 傷で出血したときに自分でとめる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 軽いねんざを自分でなおす | 1 | 2 | 3 | 4 |

次に、生命や死についての考えをお聞きます。

16 あなたは、次のことについてどう思いますか。

- | | とても
そう思う | やや
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|----------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 人の死について考えることがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 人の寿命は運命によって決められて
いる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 自分は前世の生まれ変わりだ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 死んでから、極楽か地獄のどちらか
へ行く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 生きていること自体すばらしいことだ ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 人間は死んだ後も、心は残っている ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. お盆になると、死んだ人が戻ってくる ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 人はもともと孤独で一人ぼっちである ... | 1 | 2 | 3 | 4 |

資料1 調査票見本

⑰ あなたは、次のことについてどう思いますか。

- | | とても
そう思う | かなり
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|---------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. 試験や身の安全の祈願をしたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. お守りをいつでも身につけていたい ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. おみくじが好きである..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 宇宙人やUFOはいると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 超能力はあると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 神秘体験や心霊現象などはあると思う ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 前世や来世(あの世)はあると思う ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 血液型や星座などの占いが気になる ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. たたりで悪いことがおこると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 試験や試合などではゲンをかつぐ | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑱ あなたはこれまでに、死にたいと思ったことがありますか。

- | 1回ある | 2回ある | 3回ある | 4回ある | 5回以上ある | そういう
ことはない |
|------|------|------|------|--------|---------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |



〔SQ1・SQ2は1～5と答えた方にお聞きします。6と答えた方は⑲へ
進んでください。〕

SQ1. 死にたいと思ったのはいつごろのことですか。どれか1つに をつけて
ください。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 小学生の時 | 2. 中学1年の時 | 3. 中学2年の時 |
| 4. 中学3年の時 | 5. 高校1年の時 | 6. 高校2年の時 |

SQ2. 死にたいと思った理由は何ですか。思ったことを自由に書いてください。

資料1 調査票見本

⑱ あなたは、次のことについてどう思いますか。

- | | とても
そう思う | やや
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|----------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 死ぬことはこわい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. どんな理由があっても、自殺はよくない... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 死によってつらいことから逃れられる ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 重い病気で苦しむなら死んだ方がよい ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 現在の難病もいつか科学で解明できる ... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 動物や木など自然の生き物を大切に
したい | 1 | 2 | 3 | 4 |

㉑ あなたは、次のことについてどう思いますか。

- | | とても
そう思う | かなり
そう思う | どちらとも
いえない | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|----------------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|----------------|
| 1. 宗教は心の安らぎのために大切だ ... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 宗教はお葬式のときに役立つ ... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 苦しいときに宗教は頼りになる ... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 宗教を信じるか信じないかは
個人の勝手だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 宗教についてこれまで考えた
ことがない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 宗教のことはよくわからない ... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

最後に、あなた自身のことについてお聞きます。

㉒ あなたは、部活動（課外クラブ）に入っていますか。どれか1つに をつけてください。

1. 入ったことがない、または今は入っていない
2. 運動部に入り、積極的に参加している
3. 運動部に入っているが、どちらかといえばサボりぎみ
4. 文化部に入り、積極的に参加している
5. 文化部に入っているが、どちらかといえばサボりぎみ

資料1 調査票見本

②② あなたの現在の成績は、全体として、学年の中でどの辺ですか。

上 中の上 中 中の下 下
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

②③ あなたは、心をうちあけて話せる友人がいますか。

1人いる 2～3人いる 4～5人いる 6人以上いる いない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

②④ あなたは、今の生活に満足していますか。

とても満足 かなり満足 どちらとも あまり満足 ぜんぜん満足
している している いえない していない していない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

②⑤ あなたが現在住んでいるのは、どのようなところですか。

- 1．自然がとても残っている地域
- 2．自然がやや残っている地域
- 3．自然があまり残っていない地域
- 4．自然がまったく残っていない地域

②⑥ あなたは、おじいさんやおばあさんと一緒に暮らしていますか。

- 1．祖父、祖母両方と暮らしている
- 2．祖父と暮らしている
- 3．祖母と暮らしている
- 4．祖父、祖母と一緒に暮らしていない

②⑦ あなたを含めて、兄弟姉妹は全部で何人ですか。

人

～以上で終わりです。長い間ありがとうございました。～

資料2 基礎集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目	全体	性別			
		男子	女子		
サンプル数	2,216	1,125	1,080		
② 小学生の頃をどのようにすごしたか	自然環境	1. とてもそう	45.3	39.0	52.0
		2. 少しそう	43.4	47.0	39.4
		3. あまりそうでない	10.5	13.0	8.1
		4. ぜんぜんそうでない	0.8	1.0	0.5
	便利な町中	1. とてもそう	12.1	12.4	11.8
		2. 少しそう	35.8	36.1	35.5
		3. あまりそうでない	40.8	40.7	40.8
		4. ぜんぜんそうでない	11.3	10.8	11.9
	つ空ばで遊ば原	1. とてもそう	44.9	46.7	42.9
		2. 少しそう	35.2	34.1	36.6
		3. あまりそうでない	15.7	15.5	15.9
		4. ぜんぜんそうでない	4.2	3.7	4.6
	やか鬼こつこぼ	1. とてもそう	60.2	54.8	65.5
		2. 少しそう	30.6	33.2	28.1
		3. あまりそうでない	8.0	10.3	5.7
		4. ぜんぜんそうでない	1.2	1.7	0.7
	ゲームテレビ	1. とてもそう	28.0	32.8	8.5
		2. 少しそう	31.4	42.3	28.5
		3. あまりそうでない	24.9	19.2	34.8
		4. ぜんぜんそうでない	15.7	5.7	28.2
野球のチームに	1. とてもそう	28.7	45.9	10.7	
	2. 少しそう	9.7	13.2	6.0	
	3. あまりそうでない	6.4	7.6	5.2	
	4. ぜんぜんそうでない	55.2	33.3	78.1	
世話の	1. とてもそう	21.7	19.5	24.1	
	2. 少しそう	25.1	23.6	26.6	
	3. あまりそうでない	15.8	17.4	14.3	
	4. ぜんぜんそうでない	37.4	39.5	35.0	

質問項目	全体	性別			
		男子	女子		
② 小学生の頃をどのようにすごしたか	友だちの	1. とてもそう	61.6	62.5	60.6
		2. 少しそう	29.8	28.8	30.9
		3. あまりそうでない	7.8	7.9	7.7
		4. ぜんぜんそうでない	0.8	0.8	0.8
	の友だち同士	1. とてもそう	26.0	22.8	29.2
		2. 少しそう	44.0	40.6	47.8
		3. あまりそうでない	24.1	29.5	18.6
		4. ぜんぜんそうでない	5.9	7.1	4.4
③ 小学校の時にしたこと	抱き上げた	1. よくした	38.0	29.1	47.2
		2. 少しした	32.6	34.4	30.6
		3. あまりしなかった	19.4	23.2	15.6
		4. ぜんぜんしなかった	10.0	13.3	6.6
	夕焼け空に	1. よくした	19.4	16.2	22.9
		2. 少しした	33.6	27.9	39.6
		3. あまりしなかった	30.6	33.5	27.5
		4. ぜんぜんしなかった	16.4	22.4	10.0
	まえた	1. よくした	49.2	52.0	45.9
		2. 少しした	31.8	31.7	32.1
		3. あまりしなかった	12.4	11.3	13.6
		4. ぜんぜんしなかった	6.6	5.0	8.4
	川遊びを	1. よくした	32.9	35.6	29.9
		2. 少しした	33.9	34.8	32.8
		3. あまりしなかった	21.0	19.1	23.1
		4. ぜんぜんしなかった	12.2	10.5	14.2
見た星を	1. よくした	9.9	9.3	10.6	
	2. 少しした	27.1	25.5	28.7	
	3. あまりしなかった	25.5	25.9	25.0	
	4. ぜんぜんしなかった	37.5	39.3	35.7	
草むらに寝	1. よくした	21.8	22.2	21.5	
	2. 少しした	31.5	34.1	28.8	
	3. あまりしなかった	30.7	29.7	31.4	
	4. ぜんぜんしなかった	16.0	14.0	18.3	

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
3	小学校の時にしたこと	を木のしたほり	25.6	26.7	24.5
		2. 少しした	31.0	33.2	28.7
		3. あまりしなかった	24.4	25.3	23.2
		4. ぜんぜんしなかった	19.0	14.8	23.6
	びをどろんこ遊	1. よくした	35.7	30.2	41.4
		2. 少しした	31.5	31.1	31.7
		3. あまりしなかった	23.3	26.8	19.9
		4. ぜんぜんしなかった	9.5	11.9	7.0
4	小学生の頃の家の様子	緒祖に父母と暮らす	44.3	46.8	46.8
		2. たまにそう	7.0	6.2	6.0
		3. あまりそうでない	6.1	6.8	4.7
		4. ぜんぜんそうでない	42.6	40.2	42.5
	とすこすこす	1. いつもそう	36.9	29.4	44.7
		2. たまにそう	41.1	43.8	38.6
		3. あまりそうでない	17.6	21.6	13.2
		4. ぜんぜんそうでない	4.4	5.2	3.5
	ベそ夕食は家族	1. いつもそう	61.3	59.7	62.9
		2. たまにそう	26.4	28.1	24.8
		3. あまりそうでない	9.7	9.2	10.1
		4. ぜんぜんそうでない	2.6	3.0	2.2
	霧あたたかい	1. いつもそう	55.4	48.2	62.9
		2. たまにそう	34.6	39.3	29.6
		3. あまりそうでない	8.2	10.0	6.4
		4. ぜんぜんそうでない	1.8	2.5	1.1
りに祖の墓参	1. いつもそう	72.6	70.8	74.3	
	2. たまにそう	17.4	19.1	15.7	
	3. あまりそうでない	6.4	7.0	5.8	
	4. ぜんぜんそうでない	3.6	3.1	4.2	
5	テレビ番組の頃見た	名作アニメ	34.6	26.7	42.8
		2. かなり見た	41.6	40.0	43.3
		3. あまり見なかった	21.0	28.7	13.1
		4. ぜんぜん見なかった	2.8	4.6	0.8
	ア戦闘的な	1. いつも見た	26.0	39.5	11.9
		2. かなり見た	32.8	42.0	23.1
		3. あまり見なかった	33.1	16.2	50.8
		4. ぜんぜん見なかった	8.1	2.3	14.2

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
5	小学生の頃見たテレビ番組	ドラマ	1. いつも見た	16.0	12.4	19.9
			2. かなり見た	29.3	25.6	33.2
			3. あまり見なかった	39.6	42.2	36.6
			4. ぜんぜん見なかった	15.1	19.8	10.3
		刑事・探偵	1. いつも見た	11.4	14.5	8.2
			2. かなり見た	24.0	23.8	24.1
			3. あまり見なかった	45.2	43.3	47.2
			4. ぜんぜん見なかった	19.4	18.4	20.5
		クイズもの	1. いつも見た	17.2	18.0	16.3
			2. かなり見た	44.3	43.1	45.7
			3. あまり見なかった	33.7	33.4	33.8
			4. ぜんぜん見なかった	4.8	5.5	4.2
	時代劇	1. いつも見た	7.8	8.5	7.1	
		2. かなり見た	12.7	11.9	13.4	
		3. あまり見なかった	33.8	35.8	31.5	
		4. ぜんぜん見なかった	45.7	43.8	48.0	
	バラエティ	1. いつも見た	37.4	42.1	32.4	
		2. かなり見た	43.3	38.6	48.0	
		3. あまり見なかった	15.8	15.4	16.5	
		4. ぜんぜん見なかった	3.5	3.9	3.1	
	旅行もの	1. いつも見た	2.3	2.6	2.1	
		2. かなり見た	7.9	6.6	9.3	
		3. あまり見なかった	42.9	42.6	43.5	
		4. ぜんぜん見なかった	46.9	48.2	45.1	
動物もの	1. いつも見た	14.2	10.7	18.0		
	2. かなり見た	26.6	25.7	27.8		
	3. あまり見なかった	42.9	44.7	40.6		
	4. ぜんぜん見なかった	16.3	18.9	13.6		
報道もの	1. いつも見た	4.6	5.2	3.9		
	2. かなり見た	11.1	13.2	9.1		
	3. あまり見なかった	46.3	46.0	46.5		
	4. ぜんぜん見なかった	38.0	35.6	40.5		
6	小学生の頃見たテレビゲーム	1. いつもやった	26.3	44.0	7.7	
		2. かなりやった	19.9	28.4	11.2	
		3. あまりやらなかった	18.1	15.5	21.0	
		4. ぜんぜんやらなかった	35.7	12.1	60.1	

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
6	小学生の頃やったテレビゲーム	シミュレーション	1. いつもやった	6.5	11.7	1.0
			2. かなりやった	7.8	13.1	2.4
			3. あまりやらなかった	21.5	26.9	15.6
			4. ぜんぜんやらなかった	64.2	48.3	81.0
		アドベンチャーゲーム	1. いつもやった	10.2	13.9	6.4
			2. かなりやった	22.1	29.8	14.4
			3. あまりやらなかった	28.7	33.8	23.9
			4. ぜんぜんやらなかった	39.0	22.5	55.3
		アクションゲーム	1. いつもやった	33.1	41.6	24.3
			2. かなりやった	37.2	38.4	35.9
			3. あまりやらなかった	20.1	15.2	25.4
			4. ぜんぜんやらなかった	9.6	4.8	14.4
	対戦アクションゲーム	1. いつもやった	17.1	28.3	5.4	
		2. かなりやった	20.8	27.9	13.4	
		3. あまりやらなかった	26.0	27.4	24.9	
		4. ぜんぜんやらなかった	36.1	16.4	56.3	
	シミュレーションゲーム	1. いつもやった	14.5	21.5	7.3	
		2. かなりやった	24.8	33.6	15.4	
		3. あまりやらなかった	27.6	32.4	22.9	
		4. ぜんぜんやらなかった	33.1	12.5	54.4	
7	小学生の頃のタイプ	好き外遊びが	1. とてもそう	34.4	36.4	32.0
			2. かなりそう	35.7	36.7	34.6
			3. あまりそうでない	27.1	24.4	30.3
			4. ぜんぜんそうでない	2.8	2.5	3.1
	マンガをよく読んだ	1. とてもそう	38.6	39.5	37.9	
		2. かなりそう	33.3	34.7	32.1	
		3. あまりそうでない	22.2	21.1	22.9	
		4. ぜんぜんそうでない	5.9	4.7	7.1	
	本をよく読んだ	1. とてもそう	11.0	8.2	14.1	
		2. かなりそう	20.4	17.5	23.6	
		3. あまりそうでない	48.1	50.2	45.9	
		4. ぜんぜんそうでない	20.5	24.1	16.4	
よく見た	1. とてもそう	54.1	53.2	55.0		
	2. かなりそう	33.4	34.4	32.6		
	3. あまりそうでない	11.1	10.8	11.3		
	4. ぜんぜんそうでない	1.4	1.6	1.1		

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
7	小学生の頃のタイプ	友達と遊ぶの	1. とてもそう	49.2	50.1	48.2
			2. かなりそう	34.3	34.0	34.5
			3. あまりそうでない	15.4	14.8	16.1
			4. ぜんぜんそうでない	1.1	1.1	1.2
		人にいわれた	1. とてもそう	6.2	5.2	7.3
			2. かなりそう	11.6	10.0	13.1
			3. あまりそうでない	49.9	50.9	49.0
			4. ぜんぜんそうでない	32.3	33.9	30.6
		人にいわれた	1. とてもそう	5.1	6.8	3.5
			2. かなりそう	14.9	18.3	11.4
			3. あまりそうでない	55.9	54.6	57.3
			4. ぜんぜんそうでない	24.1	20.3	27.8
	塾や習った事	1. とてもそう	11.9	8.9	15.0	
		2. かなりそう	23.6	23.0	24.1	
		3. あまりそうでない	41.7	42.1	41.3	
		4. ぜんぜんそうでない	22.8	26.0	19.6	
	クラブ活動	1. とてもそう	37.4	39.3	35.0	
		2. かなりそう	25.9	25.3	26.6	
		3. あまりそうでない	25.7	24.9	26.9	
		4. ぜんぜんそうでない	11.0	10.5	11.5	
が体育の見た字	1. とてもそう	0.9	0.7	1.0		
	2. かなりそう	1.4	1.0	1.8		
	3. あまりそうでない	11.0	10.3	11.8		
	4. ぜんぜんそうでない	86.7	88.0	85.4		
8	叱られ体験・病気体験	親からぶた	1. 何度もあった	14.7	14.8	14.7
			2. たまにあった	30.5	32.2	28.5
			3. あまりなかった	32.0	32.8	31.2
			4. ぜんぜんなかった	22.8	20.2	25.6
	先生からきつ	1. 何度もあった	14.0	18.1	9.9	
		2. たまにあった	32.8	36.4	28.7	
		3. あまりなかった	41.2	37.3	45.4	
		4. ぜんぜんなかった	12.0	8.2	16.0	
友だちから	1. 何度もあった	5.7	8.1	3.3		
	2. たまにあった	16.0	22.8	8.9		
	3. あまりなかった	32.5	39.5	25.2		
	4. ぜんぜんなかった	45.8	29.6	62.6		

質問項目	全体	性別			
		男子	女子		
8 叱られ体験・病気体験	ぶ友だちを つた	1. 何度もあった	6.2	9.4	2.9
		2. たまにあった	17.3	24.5	9.7
		3. あまりなかった	32.1	40.1	23.5
		4. ぜんぜんなかった	44.4	26.0	63.9
	で病 通気・け 院し けが	1. 何度もあった	8.7	8.3	9.3
		2. たまにあった	28.6	28.4	28.8
		3. あまりなかった	29.4	32.4	26.5
		4. ぜんぜんなかった	33.3	30.9	35.4
	話祖 を父 した母 の世	1. 何度もあった	3.2	2.2	4.2
		2. たまにあった	12.4	10.0	14.8
		3. あまりなかった	29.0	32.1	25.7
		4. ぜんぜんなかった	55.4	55.7	55.3
テ福 社イ アの をポ ラン	1. 何度もあった	3.9	3.2	4.7	
	2. たまにあった	16.2	12.9	19.6	
	3. あまりなかった	26.5	28.2	24.8	
	4. ぜんぜんなかった	53.4	55.7	50.9	
9 入院や死の体験	が病 で 入 院 け	1. 2回以上あった	9.4	10.8	8.0
		2. 1回あった	22.6	23.7	21.9
		3. ぜんぜんなかった	68.0	65.5	70.1
	入 家 院 族 の	1. 2回以上あった	45.1	43.0	47.4
		2. 1回あった	30.9	30.8	31.1
		3. ぜんぜんなかった	24.0	26.2	21.5
	の親 入 院 し 人	1. 2回以上あった	46.1	44.9	47.5
		2. 1回あった	30.1	28.3	31.7
		3. ぜんぜんなかった	23.8	26.8	20.8
	族家 の族 死・親	1. 2回以上あった	42.2	39.3	45.6
		2. 1回あった	33.9	35.5	32.0
		3. ぜんぜんなかった	23.9	25.2	22.4
	人親 のし 死	1. 2回以上あった	18.1	18.7	17.6
		2. 1回あった	25.5	24.5	26.5
		3. ぜんぜんなかった	56.4	56.8	55.9
	顔お を葬 見た式 で死	1. 2回以上あった	30.7	29.9	31.9
		2. 1回あった	38.3	38.4	37.8
		3. ぜんぜんなかった	31.0	31.7	30.3

質問項目	全体	性別			
		男子	女子		
9 体験 入院 や死 の ペ ット	の 死	1. 2回以上あった	35.5	31.6	39.8
		2. 1回あった	21.7	22.7	20.6
		3. ぜんぜんなかった	42.8	45.7	39.6
10 るに 自 分 の 体 力 が あ	る に 自 分 の 体 力 が あ	1. とても自信がある	6.9	8.4	5.1
		2. かなり自信がある	32.2	34.5	29.6
		3. あまり自信がない	49.4	46.8	52.4
		4. まったく自信がない	11.5	10.3	12.9
11 心 身 の 状 態	な る 寝 不 足 に	1. よくある	42.2	38.2	46.6
		2. かなりある	34.0	36.6	31.5
		3. あまりない	19.3	20.0	18.3
		4. ほとんどない	4.5	5.2	3.6
	食 欲 が な い	1. よくある	5.5	5.5	5.5
		2. かなりある	13.8	16.1	11.4
		3. あまりない	45.6	46.9	44.1
		4. ほとんどない	35.1	31.5	39.0
	が何 と だ る と な く い 体	1. よくある	29.4	27.0	31.9
		2. かなりある	37.5	39.5	35.6
		3. あまりない	26.3	26.8	25.6
		4. ほとんどない	6.8	6.7	6.9
	ラ フ ラ す す す	1. よくある	22.2	21.2	23.4
		2. かなりある	35.1	31.6	39.0
		3. あまりない	31.8	34.1	28.9
		4. ほとんどない	10.9	13.1	8.7
	でさ さい な と こ に 当 た る	1. よくある	8.4	6.7	10.3
		2. かなりある	23.1	19.2	27.3
3. あまりない		46.4	48.4	44.2	
4. ほとんどない		22.1	25.7	18.2	
す イ ラ イ ラ	1. よくある	15.2	13.7	16.7	
	2. かなりある	31.3	28.7	34.0	
	3. あまりない	37.4	40.0	34.8	
	4. ほとんどない	16.1	17.6	14.5	
な い と 思 っ た	今 の 自 分 は 本 当 の 自 分 で は	1. よくある	19.0	19.7	18.0
	2. かなりある	21.4	22.4	20.3	
	3. あまりない	36.2	33.0	39.4	
	4. ほとんどない	23.4	24.9	22.3	

質問項目			全 体	性 別		
				男 子	女 子	
11	心身の状態	責任のあることにかかわりたくないと感じる	1. よくある	16.9	20.8	12.6
			2. かなりある	31.8	33.9	29.7
			3. あまりない	40.3	35.6	45.3
			4. ほとんどない	11.0	9.7	12.4
12	健康のためにしていること	3食きちんと食事をとる	1. いつもしている	67.5	67.1	67.9
			2. かなりしている	20.4	18.9	22.0
			3. あまりしていない	9.1	10.2	8.0
			4. ほとんどしていない	3.0	3.8	2.1
	睡眠時間をきちんととる	1. いつもしている	17.7	17.5	18.0	
		2. かなりしている	29.7	28.6	30.9	
		3. あまりしていない	44.7	44.5	44.7	
		4. ほとんどしていない	7.9	9.4	6.4	
	適度の運動を欠かさない	1. いつもしている	22.3	29.7	14.5	
		2. かなりしている	20.3	25.5	14.7	
		3. あまりしていない	40.8	33.3	48.9	
		4. ほとんどしていない	16.6	11.5	21.9	
外食や安い食いをさける	1. いつもしている	8.4	7.8	8.9		
	2. かなりしている	24.6	27.2	22.1		
	3. あまりしていない	48.4	45.8	51.0		
	4. ほとんどしていない	18.6	19.2	18.0		
13	自分の体にしてみたいこと	ダイエットをする	1. とてもしたい	24.0	6.7	42.1
			2. かなりしたい	20.9	13.7	28.2
			3. あまりしたくない	22.5	29.7	15.0
			4. したくない	27.9	47.2	7.9
			5. 現在している	4.7	2.7	6.8
	髪を染める	1. とてもしたい	14.6	10.2	19.2	
		2. かなりしたい	22.0	19.8	24.3	
		3. あまりしたくない	29.4	30.2	27.9	
		4. したくない	27.4	35.4	19.5	
		5. 現在している	6.6	4.4	9.1	
	日焼けサロンやエステに行く	1. とてもしたい	9.1	3.5	14.8	
		2. かなりしたい	8.4	3.7	13.3	
		3. あまりしたくない	18.3	16.9	19.8	
		4. したくない	63.4	75.4	51.1	
		5. 現在している	0.8	0.5	1.0	

質問項目			全 体	性 別		
				男 子	女 子	
13	自分の体にしてみたいこと	フィットネスジムに行く	1. とてもしたい	15.3	12.2	18.4
			2. かなりしたい	23.8	23.2	24.6
			3. あまりしたくない	28.0	30.2	25.6
			4. したくない	31.5	33.0	30.1
			5. 現在している	1.4	1.4	1.3
		耳以外のところにピアスをつける	1. とてもしたい	2.4	1.8	3.1
			2. かなりしたい	2.8	2.6	3.1
			3. あまりしたくない	12.6	13.6	11.3
			4. したくない	81.1	81.3	80.9
			5. 現在している	1.1	0.7	1.6
		薬をせるために飲む	1. とてもしたい	3.9	1.1	6.9
			2. かなりしたい	3.7	1.3	6.2
			3. あまりしたくない	15.0	10.4	19.9
			4. したくない	76.3	86.6	65.4
			5. 現在している	1.1	0.6	1.6
安全であれば顔の整形をする	1. とてもしたい	4.1	2.3	6.0		
	2. かなりしたい	4.6	3.6	5.6		
	3. あまりしたくない	16.4	15.9	16.8		
	4. したくない	74.0	77.6	70.3		
	5. 現在している	0.9	0.6	1.3		
14	気になること	電車の乗り降りで革の触れたつり革にぎる	1. とても気になる	3.8	2.8	4.8
			2. かなり気になる	8.5	4.3	12.7
			3. あまり気にならない	39.4	33.3	45.9
			4. ぜんぜん気にならない	48.3	59.6	36.6
			5. 現在している	0.0	0.0	0.0
		電車の乗り降りで体が触れ合う	1. とても気になる	5.3	3.4	7.3
			2. かなり気になる	15.6	8.5	23.0
			3. あまり気にならない	45.7	40.1	51.4
			4. ぜんぜん気にならない	33.4	48.0	18.3
			5. 現在している	0.0	0.0	0.0
		他人が座った際の腰かける	1. とても気になる	17.7	9.2	26.7
			2. かなり気になる	24.1	16.9	31.5
			3. あまり気にならない	36.6	42.0	30.8
			4. ぜんぜん気にならない	21.6	31.9	11.0
			5. 現在している	0.0	0.0	0.0
汗をかいて近づく人がいる	1. とても気になる	12.0	8.6	15.6		
	2. かなり気になる	30.5	23.6	37.7		
	3. あまり気にならない	43.2	46.6	39.5		
	4. ぜんぜん気にならない	14.3	21.2	7.2		
	5. 現在している	0.0	0.0	0.0		

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
14	気になること	か人前で鼻を かむ	1. とても気になる	20.9	15.7	26.3
			2. かなり気になる	30.4	28.3	32.6
			3. あまり気にならない	33.2	36.2	30.0
			4. ぜんぜん気にならない	15.5	19.8	11.1
		におう 自分の汗が	1. とても気になる	31.7	19.7	44.4
			2. かなり気になる	36.4	35.7	37.0
			3. あまり気にならない	25.0	33.2	16.3
			4. ぜんぜん気にならない	6.9	11.4	2.3
		がた後におつ 自らが使用し た後にトイレ	1. とても気になる	27.3	15.1	40.2
			2. かなり気になる	37.0	35.5	38.3
			3. あまり気にならない	28.0	36.4	19.2
			4. ぜんぜん気にならない	7.7	13.0	2.3
15	体や健康についてできること	やけどの てを する手	1. できる	22.4	23.4	21.4
			2. たぶんできる	46.4	42.5	50.3
			3. たぶんできない	24.5	27.1	21.9
			4. できない	6.7	7.0	6.4
		予な風邪を 防いだる すため する か	1. できる	33.5	30.5	36.5
			2. たぶんできる	52.9	52.6	53.5
			3. たぶんできない	11.4	14.0	8.6
			4. できない	2.2	2.9	1.4
		かて体 判病の 断気だ する るの さ	1. できる	13.9	14.4	13.2
			2. たぶんできる	36.9	37.2	36.7
			3. たぶんできない	36.6	35.9	37.3
			4. できない	12.6	12.5	12.8
		ムど食 を事 整生 え活 る ス	1. できる	22.8	23.0	22.7
			2. たぶんできる	44.0	44.1	43.4
			3. たぶんできない	26.2	25.5	27.2
			4. できない	7.0	7.4	6.7
		分出風邪 たた高熱 でたに な おす 自	1. できる	15.1	15.9	14.3
			2. たぶんできる	37.7	40.1	35.1
			3. たぶんできない	34.4	33.8	35.0
			4. できない	12.8	10.2	15.6
		分た傷 でと でき し 出 血 し	1. できる	32.6	34.5	30.7
			2. たぶんできる	46.5	46.8	46.3
			3. たぶんできない	17.8	15.9	19.7
			4. できない	3.1	2.8	3.3

質問項目		全体	性別				
			男子	女子			
15	死に関する考え方	体や健康についてできること	軽いなごを 自分で おす	1. できる	19.0	23.2	14.6
				2. たぶんできる	30.7	33.5	27.5
				3. たぶんできない	34.8	31.7	38.2
				4. できない	15.5	11.6	19.7
		考死 えにつ いて	1. とてもそう思う	33.5	35.2	31.7	
			2. ややそう思う	43.6	39.2	48.2	
			3. あまりそう思わない	18.0	19.3	16.8	
			4. ぜんぜんそう思わない	4.9	6.3	3.3	
		寿命は運命	1. とてもそう思う	20.6	22.7	18.4	
			2. ややそう思う	26.5	21.3	32.0	
			3. あまりそう思わない	30.3	28.4	32.2	
			4. ぜんぜんそう思わない	22.6	27.6	17.4	
わりの生 まれ 変	1. とてもそう思う	11.7	11.3	12.0			
	2. ややそう思う	17.3	14.8	19.9			
	3. あまりそう思わない	34.3	31.1	37.4			
	4. ぜんぜんそう思わない	36.7	42.8	30.7			
地獄へ行く 極楽か	1. とてもそう思う	12.7	12.7	12.7			
	2. ややそう思う	23.4	18.3	28.7			
	3. あまりそう思わない	32.5	29.8	35.4			
	4. ぜんぜんそう思わない	31.4	39.2	23.2			
ばらばら しい	1. とてもそう思う	44.7	43.2	45.9			
	2. ややそう思う	29.0	27.4	31.0			
	3. あまりそう思わない	19.4	20.0	18.8			
	4. ぜんぜんそう思わない	6.9	9.4	4.3			
残つても いるは	1. とてもそう思う	20.6	17.8	23.6			
	2. ややそう思う	27.7	22.9	32.9			
	3. あまりそう思わない	30.0	30.1	29.8			
	4. ぜんぜんそう思わない	21.7	29.2	13.7			
だ人が戻る お盆には死 ん	1. とてもそう思う	12.7	8.3	17.2			
	2. ややそう思う	24.6	17.4	32.2			
	3. あまりそう思わない	33.8	33.3	34.4			
	4. ぜんぜんそう思わない	28.9	41.0	16.2			
一人はもとも と	1. とてもそう思う	18.1	21.0	15.1			
	2. ややそう思う	19.8	19.9	19.5			
	3. あまりそう思わない	31.5	27.8	35.5			
	4. ぜんぜんそう思わない	30.6	31.3	29.9			

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
19	死について	動物や木など自然の生き物を大切にしたい	1. とてもそう思う	69.4	64.3	74.9
		2. ややそう思う	27.2	31.2	23.0	
		3. あまりそう思わない	2.4	2.9	1.8	
		4. ぜんぜんそう思わない	1.0	1.6	0.3	
20	宗教は心の安らぎ	1. とてもそう思う	5.0	6.1	3.9	
		2. かなりそう思う	7.1	8.0	6.1	
		3. どちらともいえない	36.7	34.6	39.0	
		4. あまりそう思わない	19.5	16.9	22.2	
		5. ぜんぜんそう思わない	31.7	34.4	28.8	
	宗教はお葬式の時役立つ	1. とてもそう思う	4.9	6.9	2.8	
		2. かなりそう思う	10.0	10.2	9.7	
		3. どちらともいえない	35.5	33.3	37.8	
		4. あまりそう思わない	22.3	19.3	25.4	
		5. ぜんぜんそう思わない	27.3	30.3	24.3	
	苦しいときは頼りにする	1. とてもそう思う	3.6	3.7	3.5	
		2. かなりそう思う	9.4	9.6	9.2	
		3. どちらともいえない	26.8	26.0	27.6	
		4. あまりそう思わない	21.7	18.8	24.6	
		5. ぜんぜんそう思わない	38.5	41.9	35.1	
	宗教を個人の自由で信じる	1. とてもそう思う	63.1	66.6	59.3	
		2. かなりそう思う	22.8	19.3	26.4	
		3. どちらともいえない	10.5	9.5	11.6	
		4. あまりそう思わない	0.9	0.9	0.8	
		5. ぜんぜんそう思わない	2.7	3.7	1.9	
宗教について考えたことがない	1. とてもそう思う	28.4	28.4	28.1		
	2. かなりそう思う	12.6	11.4	13.7		
	3. どちらともいえない	28.7	27.2	30.5		
	4. あまりそう思わない	14.4	14.5	14.5		
	5. ぜんぜんそう思わない	15.9	18.5	13.2		
宗教のことはよくわからない	1. とてもそう思う	46.4	44.3	48.4		
	2. かなりそう思う	18.1	18.0	18.1		
	3. どちらともいえない	22.3	23.5	21.3		
	4. あまりそう思わない	5.7	5.1	6.4		
	5. ぜんぜんそう思わない	7.5	9.1	5.8		

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
21	部活動	1. 入部していない	28.9	27.8	30.2
		2. 運動部で積極的	35.9	43.8	27.7
		3. 運動部でサボりぎみ	9.6	10.9	8.2
		4. 文化部で積極的	13.8	6.8	21.0
		5. 文化部でサボりぎみ	11.8	10.7	12.9
22	成績	1. 上	5.9	7.4	4.3
		2. 中の上	20.3	20.3	20.4
		3. 中	34.4	33.0	35.7
		4. 中の下	22.6	20.9	24.3
		5. 下	16.8	18.4	15.3
23	友人	1. 1人いる	11.0	9.4	12.8
		2. 2～3人いる	48.5	44.8	52.4
		3. 4～5人いる	17.5	17.6	17.2
		4. 6人以上いる	10.0	11.2	8.8
		5. いない	13.0	17.0	8.8
24	生活の満足度	1. とても満足している	7.6	7.7	7.4
		2. かなり満足している	22.5	21.2	23.9
		3. どちらともいえない	35.3	34.6	36.2
		4. あまり満足していない	22.9	21.7	23.9
		5. ぜんぜん満足していない	11.7	14.8	8.6
25	い現在住んでいるところで	1. 自然がとて残っている地域	37.7	33.6	41.9
		2. 自然がやや残っている地域	50.6	53.3	47.7
		3. 自然があまり残っていない地域	11.0	12.2	9.8
		4. 自然がまったく残っていない地域	0.7	0.9	0.6
26	同居の祖父母との	1. 祖父、祖母両方と暮らしている	23.2	23.6	22.6
		2. 祖父と暮らしている	4.4	3.9	4.9
		3. 祖母と暮らしている	18.3	18.1	18.4
		4. 祖父、祖母と一緒に暮らしていない	54.1	54.4	54.1
27	姉妹や兄弟を含め自分	1. 1人	5.1	5.2	5.0
		2. 2人	53.5	55.4	52.0
		3. 3人	34.7	32.8	36.5
		4. 4人以上	6.7	6.6	6.5